

Netra SPARC S7-2 サーバー設置ガイド



Part No: E77194-01
2016 年 6 月

Part No: E77194-01

Copyright © 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用方法	7
サーバーの概要	9
設置タスクの概要	9
サーバーの概要	10
フロントパネルのコンポーネント (設置)	12
背面パネルのコンポーネント (設置)	13
仕様の確認	15
物理仕様	15
電気仕様	16
入力電力の情報	17
過電流保護の要件	17
環境要件	18
音響ノイズの放出	19
通気に関する注意事項	20
設置の準備	21
出荷キットの内容一覧	21
取り扱い上の注意	22
静電放電に関する注意事項	23
設置に必要な工具	23
サーバーの設置	25
オプションのコンポーネント	25
ラックに関する注意事項	26
▼ ラックを固定する	27
標準 19 インチハードマウントキット (4 ポストラック) の取り付け	27
19 インチハードマウントキット (4 ポストラック) のコンポーネント	28
▼ サーバーを取り付ける (4 ポスト 19 インチハードマウントラックキット)	29

CMA 付き 19 インチスライドレールキットの取り付け	33
CMA 付き 19 インチスライドレールキットのコンポーネント	34
▼ サーバーを取り付ける (CMA 付き 4 ポスト 19 インチスライドレールラック キット)	35
19 インチハードマウントキット (2 ポストラック) の取り付け	44
19 インチハードマウントラックキット (2 ポストラック) コンポーネント	45
▼ サーバーを取り付ける (2 ポスト 19 インチハードマウントラックキット)	46
ケーブルの接続	53
使用可能な接続	53
データケーブルおよび管理ケーブルの接続	55
▼ SP にケーブルを接続する	56
▼ Ethernet ポートにケーブルを接続する	56
▼ その他のデータケーブルを接続する	57
ポートの識別	57
SER MGT ポート	58
NET MGT ポート	59
10 ギガビット Ethernet ポート	59
USB ポート	60
サーバーへのはじめての電源投入	63
▼ 電源コードを準備する	64
▼ シャーシのアース線を接続する	65
▼ SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する	66
Oracle ILOM システムコンソール	68
▼ はじめてサーバーに電源を投入する	69
▼ NEBS モードを無効にする	70
OS のインストール	71
▼ プリインストールされている OS を構成する	71
▼ 新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM CLI)	72
▼ 新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM Web インタ フェース)	74
Oracle Solaris OS の構成パラメータ	76
▼ 静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる	77
Oracle Auto Service Request ソフトウェアのアクティブ化	79
索引	81

このドキュメントの使用方法

- 概要 – Oracle の Netra SPARC S7-2 サーバー の仕様、およびサーバーをはじめて設置して電源を投入する方法について説明します。
- 対象読者 – 技術者、システム管理者、および認定サービスプロバイダ。
- 前提知識 – ハードウェアの設置の経験。

製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは <http://www.oracle.com/goto/netra-s7-2/docs> で入手できます。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

サーバーの概要

次の各トピックでは、サーバー機能の設置の概要と情報を提供します。

- [9 ページの「設置タスクの概要」](#)
- [10 ページの「サーバーの概要」](#)
- [12 ページの「フロントパネルのコンポーネント \(設置\)」](#)
- [13 ページの「背面パネルのコンポーネント \(設置\)」](#)

関連情報

- [15 ページの「仕様の確認」](#)
- [21 ページの「設置の準備」](#)
- [25 ページの「サーバーの設置」](#)
- [53 ページの「ケーブルの接続」](#)
- [63 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」](#)

設置タスクの概要

次のタスクを実行して、サーバーの設置と構成を行います。

手順	説明	リンク
1.	『プロダクトノート』でサーバーの最新の情報について確認します。	Netra SPARC S7-2 サーバープロダクトノート
2.	サーバーの機能を確認して、サーバーコンポーネントについて理解します。	10 ページの「サーバーの概要」 12 ページの「フロントパネルのコンポーネント (設置)」 13 ページの「背面パネルのコンポーネント (設置)」
3.	サーバーの仕様および設置場所の要件を確認します。	15 ページの「仕様の確認」
4.	注文したアイテムがすべて届いていることを確認します。	21 ページの「出荷キットの内容一覧」
5.	安全性および静電放電に関する注意事項を確認します。	22 ページの「取り扱い上の注意」

手順	説明	リンク
6.	必要な工具類を用意します。	23 ページの「静電放電に関する注意事項」
7.	注文したオプションのコンポーネントを設置します。	23 ページの「設置に必要な工具」
8.	ラックに関する注意事項を確認します。	25 ページの「オプションのコンポーネント」
9.	4 ポストラックまたは 2 ポストラックにサーバーを取り付けます。	26 ページの「ラックに関する注意事項」
10.	配線の要件とポートの情報を確認します。データケーブルと管理ケーブルをサーバーに接続します。	25 ページの「サーバーの設置」
11.	電源コードを準備し、電源を入れ、サーバーをはじめて起動します。	53 ページの「ケーブルの接続」
		63 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」

関連情報

- [10 ページの「サーバーの概要」](#)
- [12 ページの「フロントパネルのコンポーネント \(設置\)」](#)
- [13 ページの「背面パネルのコンポーネント \(設置\)」](#)
- [Netra SPARC S7-2 サーバースervice マニュアル](#)

サーバーの概要

サーバーはキャリアグレード、NEBS 認定、2U サーバーです。この表はサーバーのコンポーネントをまとめています。サーバーの機能の詳細については、<http://www.oracle.com/goto/netra-s7-2> を参照してください。

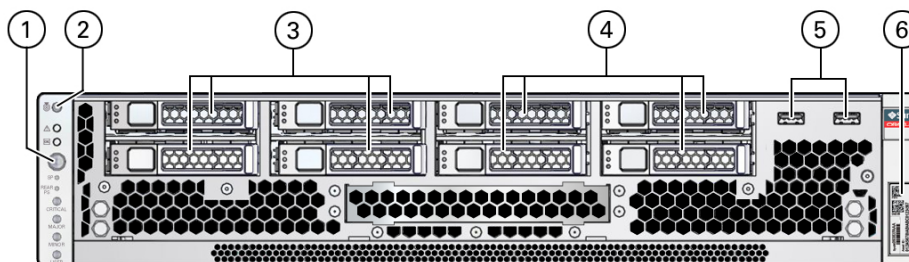
コンポーネント	説明
プロセッサ	次を含む最大 2 台の SPARC 4.26 GHz CPU (NEBS モードで 3.0 GHz) ■ CPU あたり 4x 内蔵メモリーコントローラ ■ CPU あたり 8 コアおよび 64 スレッド ■ CPU あたり 2x Database Accelerator (DAX) ■ 統合メモリーコントローラ 注記 - CPU 構成は出荷時に設定されます。単一 CPU サーバーは、デュアル CPU 構成にアップグレードできません。
メモリー	DDR4-2400MHz DIMM スロットの数は CPU 構成によって異なります。メモリーユニットあたりの最大は 512G バイト (16 × 32G バイト DIMM) および 1024G バイト (16 × 64G バイト DIMM) です。 ■ シングルプロセッサ - 16G バイトまたは 32G バイトのいずれかの容量をサポートする 8 スロット。 ■ デュアルプロセッサ - 16G バイトまたは 32G バイトのいずれかの容量をサポートする 16 スロット (CPU あたり 8 スロット)。

コンポーネント	説明
	注記 - 取り付けられているメモリーの数量と容量は、注文の内容によって変わります。
ストレージ	■ 最大 8 台の SAS HDD/SDD 用の 8 つの SFF スロット ■ 4 つの SFF スロットを NVMe SDD に使用できます
サービスプロセッサ	マザーボード上の業界標準セキュリティー暗号化をサポートする暗号化アクセラレーションを備える内蔵 SP。SP は次をプロビジョニングする Oracle ILOM ファームウェアを実行します。
Ethernet ポート	■ Oracle ILOM 3.2.4 ■ シリアル管理 (RJ-45) ■ ネットワーク管理 (10/100/1000BASE-T Ethernet RJ-45)
PCIe スロット	4 つの 100/1000Mb/10Gb BASE-T Ethernet (RJ-45) (リンク LED 付き)。
PCIe 内蔵 HBA カード	6 つの PCIe x8 Gen3 スロット。2 つは x16 Gen3 スロットとして使用できますが、電気的な最大は x8、カードあたり 25 ワットのままです。すべての PCIe 拡張スロットは PCIe 3.0/Gen3 (PCIe3) シグナリングレベルをサポートします。
USB ポート	(オプション) 1 枚の内蔵 SAS HBA PCIe コントローラカード。
eUSB フラッシュドライブ	2 つの前面 2.0 USB ポートと 1 つの背面 3.0 USB ポート。
インジケータとスイッチ	1 台の内蔵 eUSB ドライブ。
電源装置	■ 電源ボタンスイッチ ■ 位置特定ボタンスイッチ (LED 付き) ■ システム OK LED ■ システム障害 LED ■ アラーム LED - クリティカル (赤色)、メジャー (赤色)、マイナー (オレンジ色)、ユーザー (オレンジ色) ■ 背面 PS 障害 LED
冷却	2 台のホットスワップ可能 Oracle モデル A266 200 - 240 VAC、PSU 定格出力 1200W (最大) 電源装置。
	前面から背面への強制換気、高性能アクティブファン速度制御。

関連情報

- [9 ページの「設置タスクの概要」](#)
- [12 ページの「フロントパネルのコンポーネント \(設置\)」](#)
- [13 ページの「背面パネルのコンポーネント \(設置\)」](#)
- [Netra SPARC S7-2 サーバースerviceマニュアル](#)

フロントパネルのコンポーネント (設置)



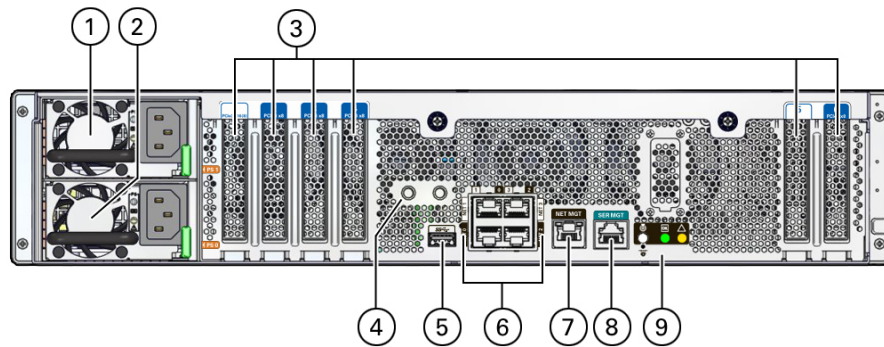
番号	説明	リンク
1	電源ボタン ステータスインジケータ (上から下へ): ■ ロケータ LED およびボタン ■ 保守要求 LED ■ システム OK LED ■ 電源ボタン ■ 背面 PS 障害 LED Telco アラームインジケータ: ■ クリティカル LED ■ メジャー LED ■ マイナー LED ■ ユーザー LED	63 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」 『Netra SPARC S7-2 サーバースerviceマニュアル』の「LED の解釈」
2	位置特定ボタン	『Netra SPARC S7-2 サーバースerviceマニュアル』の「背面パネルの LED」
3 および 4	8 つの SAS ドライブスロット、うち 4 つを NVMe スロットとして使用できます	『Netra SPARC S7-2 サーバースerviceマニュアル』の「SAS ドライブの保守」
5	2 つの USB 2.0 ポート	60 ページの「USB ポート」
6	シリアル番号および製造情報	『Netra SPARC S7-2 サーバースerviceマニュアル』の「サーバーのシリアル番号を特定する」

関連情報

- [9 ページの「設置タスクの概要」](#)
- [10 ページの「サーバーの概要」](#)

- 13 ページの「背面パネルのコンポーネント (設置)」
- [Netra SPARC S7-2 サーバーサービスマニュアル](#)

背面パネルのコンポーネント (設置)



番号	説明	リンク
1	ホットスワップ可能電源装置 (AC)、PS1	『Netra SPARC S7-2 サーバーサービスマニュアル』の「電源装置の保守」
2	ホットスワップ可能電源装置 (AC)、PS0	『Netra SPARC S7-2 サーバーサービスマニュアル』の「電源装置の保守」
3	PCIe スロット	『Netra SPARC S7-2 サーバーサービスマニュアル』の「PCIe カードの保守」
4	アーススタッド端子	65 ページの「シャーシのアース線を接続する」
5	USB 3.0 ポート	60 ページの「USB ポート」
6	4 つの 10 ギガビット Ethernet ポート (NET 3、NET 2、NET 1、NET 0)	59 ページの「10 ギガビット Ethernet ポート」
7	NET MGT ポート	59 ページの「NET MGT ポート」
8	SER MGT ポート	58 ページの「SER MGT ポート」
9	ステータス LED: ■ ロケータ LED およびボタン ■ 保守要求 LED ■ 主電源 OK LED	『Netra SPARC S7-2 サーバーサービスマニュアル』の「LED ボードの保守」

関連情報

- [9 ページの「設置タスクの概要」](#)

- 10 ページの「サーバーの概要」
- 12 ページの「フロントパネルのコンポーネント (設置)」
- *Netra SPARC S7-2 サーバースerviceマニュアル*

仕様の確認

これらのトピックでは、サーバーの仕様に関する情報を提供します。

- [15 ページの「物理仕様」](#)
- [16 ページの「電気仕様」](#)
- [17 ページの「入力電力の情報」](#)
- [17 ページの「過電流保護の要件」](#)
- [18 ページの「環境要件」](#)
- [19 ページの「音響ノイズの放出」](#)
- [20 ページの「通気に関する注意事項」](#)

関連情報

- [9 ページの「サーバーの概要」](#)
- [21 ページの「設置の準備」](#)
- [25 ページの「サーバーの設置」](#)
- [53 ページの「ケーブルの接続」](#)
- [63 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」](#)

物理仕様

説明	米国	メトリック
ラックユニット	2U	2U
高さ	3.46 インチ	88 mm
幅 (シャーシ)	16.73 インチ	425 mm
最大幅 (ベゼル前面から背面の突起まで)	17.52 インチ	445 mm
奥行き (シャーシ)	23.9 インチ	608 mm
最大奥行き (ベゼル前面から背面の突起まで)	25.2 インチ	640 mm
重量 (PCIe カードなしで完全構成) [†]	47.3 ポンド	21.5 kg

説明	米国	メトリック
保守用最小クリアランス (前面)	36 インチ	914.4 mm
保守用最小クリアランス (背面)	36 インチ	914.4 mm
通気用最小クリアランス (前面)	2 インチ	50.8 mm
通気用最小クリアランス (背面)	3 インチ	76.2 mm

† 重量の仕様は内蔵オプションによって異なります。

関連情報

- [16 ページの「電気仕様」](#)
- [17 ページの「入力電力の情報」](#)
- [17 ページの「過電流保護の要件」](#)
- [18 ページの「環境要件」](#)
- [19 ページの「音響ノイズの放出」](#)
- [20 ページの「通気に関する注意事項」](#)

電気仕様

次の表の値は、電源装置を示しています。オンラインの消費電力計算機能 (Power Calculator) を使用して、使用している構成の消費電力を判断してください。 <http://www.oracle.com/goto/powercalculators>

パラメータ	AC
電圧 (公称)	200 - 240 VAC (180 - 264 VAC の範囲)
入力電流 (最大)	7A @ 200-240 VAC
周波数 (公称)	50/60Hz (47 - 63Hz の範囲)



注意 - この装置またはサブアセンブリのポートは、建物内の露出していない配線への接続にのみ適しています。装置またはサブアセンブリの建物内ポートは、局外設備配線に接続するインタフェースに金属的に接続しないでください。これらのインタフェースは、建物内インタフェース (GR-1089-CORE Issue 6 で説明されている Type 2 または Type 4 のポート) として使用するためにのみ設計されており、露出した局外設備ケーブル配線から絶縁する必要があります。プライマリプロテクタを追加しても、これらのインタフェースを局外設備配線に金属的に接続するための十分な保護にはなりません。



注意 - 装置またはサブアセンブリの建物内ポートは、Ethernet ポートを除いて、両端でアースされたシールド付き建物内配線を使用する必要があります。

関連情報

- [15 ページの「物理仕様」](#)
- [17 ページの「入力電力の情報」](#)
- [17 ページの「過電流保護の要件」](#)
- [18 ページの「環境要件」](#)
- [19 ページの「音響ノイズの放出」](#)
- [20 ページの「通気に関する注意事項」](#)

入力電力の情報

サーバーの総入力電力は、動作している電源装置間で均等に分配されます。

電源装置への入力、サーバーシャーシおよびその他の電源装置入力から絶縁されています。AC 電源の入力は許容範囲内で電圧が異なることがあり、サーバーシャーシに関連してオフセット電圧が異なる場合があります。

注記 - 設備に電圧サージを 2000 V 未満に制限するサージプロテクタが装備されている場合、サーバーには AC 電源構成への追加のサージプロテクタは必要ありません。ただし、追加のサージプロテクタが必要な現場の場合は、サージプロテクタを設置できます。

関連情報

- [15 ページの「物理仕様」](#)
- [16 ページの「電気仕様」](#)
- [17 ページの「過電流保護の要件」](#)
- [18 ページの「環境要件」](#)
- [19 ページの「音響ノイズの放出」](#)
- [20 ページの「通気に関する注意事項」](#)

過電流保護の要件

本製品には、U.S. NEC に定義されている分岐回路の過電流保護は装備されていません。U.S. NEC に準拠するためには、U.S. NEC 第 240 項に定義されている過電流保護を装備した分岐回路上に本製品を設置する必要があります。

- 定格電流が 16 A 以下の製品の電力入力には、定格が 20 A 以下の分岐回路または補助的な過電流保護装置が必要になります。
- 定格電流が 16 A より大きい製品の電力入力には、製品定格が 160% 以下の分岐回路または補助的な過電流保護装置が必要になります。
- ほかの国内または地域の電気工事規定が、この製品の設置に適用される場合があります。

一般的なガイドラインとして、高温および過渡電圧擾乱条件の下で安定した電力を供給するためには、製品定格が 125% 以上の過電流保護装置が必要です。ただし、製品設置において保護装置の定格を決める際は、保護装置の特性と該当する電気工事規定について考慮する必要があります。

注記 - 過電流保護装置は、国内と地域の両方の電気安全基準に適合し、かつ用途に合った装置を使用してください。

関連情報

- [15 ページの「物理仕様」](#)
- [16 ページの「電気仕様」](#)
- [17 ページの「入力電力の情報」](#)
- [18 ページの「環境要件」](#)
- [19 ページの「音響ノイズの放出」](#)
- [20 ページの「通気に関する注意事項」](#)

環境要件



注意 - Netra ラックマウントサーバーは、承認済みのラックマウントキットを使用している場合にのみ、これら最悪の動作条件を満たすことが保証されています。これらの環境仕様を満たすためには、ラックマウントの手順に厳密に従う必要があります。

仕様	動作時	非動作時
周囲温度 [†]	最大: 5°C から 45°C (41°F から 113°F) 最高 1829 m (6000 フィート) [‡] 最適: 21°C から 23°C (69.8°F から 73.4°F) 短期間最大: -5°C から 55°C (23°F から 131°F)	-40°C から 70°C (-40°F から 158°F)
相対湿度	5 - 85% 相対湿度、結露なし、ただし乾燥空気 1kg 当たりの水 0.024kg 以下 (乾燥空気 2.205 ポンド当たり 0.053 ポンドの水)	93%、結露なし、最大湿球温度 40°C (104°F)

仕様	動作時	非動作時
	短期間: 5 - 90% 相対湿度、結露なし、乾燥空気 1kg 当たりの水 0.024kg 以下 (乾燥空気 2.205 ポンド当たり 0.053 ポンドの水)	
高度 (弊社の要件)	最高 3000 m (9840 フィート)、40°C (104°F)	最大 12,000 m (39,370 フィート)
高度 (NEBS の要件)	-60 m から 1800 m (-200 フィートから 5905 フィート)、40°C (104°F)	最高 12,000 m (39,370 フィート)
	1800 m から 4000 m (5905 フィートから 13,123 フィート)、30°C (86°F)	

† リムーバブルメディアデバイスには適用されません。

‡ 動作時の周囲の最高温度は、500 m 上昇するたびに 1°C 下がります。

関連情報

- [15 ページの「物理仕様」](#)
- [16 ページの「電気仕様」](#)
- [17 ページの「入力電力の情報」](#)
- [17 ページの「過電流保護の要件」](#)
- [19 ページの「音響ノイズの放出」](#)
- [20 ページの「通気に関する注意事項」](#)

音響ノイズの放出

サーバーの公表ノイズ放出値は、ISO 9296 規格に準拠しています。

パラメータ	動作時のノイズの放出
音響出力 LwA (dBA)	75 dBA (AC サーバー)

関連情報

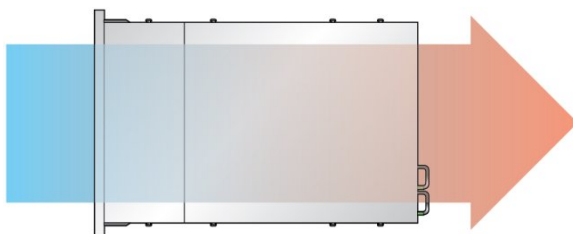
- [15 ページの「物理仕様」](#)
- [16 ページの「電気仕様」](#)
- [17 ページの「入力電力の情報」](#)
- [17 ページの「過電流保護の要件」](#)
- [18 ページの「環境要件」](#)
- [20 ページの「通気に関する注意事項」](#)

通気に関する注意事項



注意 - サーバーの内部温度を安全な動作範囲内に保つためには、適度な通気が不可欠です。

空気はサーバーの前面から背面に流れます。



これらのガイドラインに従って、サーバー内の通気が妨げられないようにします。

- 通気の最小クリアランスの仕様に従います。[15 ページの「物理仕様」](#)を参照してください。
- サーバーは前面が涼しい通路、背面が暖かい通路に面するように設置してください。
- 暖かい空気をサーバーに直接送り込まないようにします。
- ラックまたはキャビネット内で空気が再循環しないようにしてください。
- 内部コンポーネントを保守する際に、エアダクト、エアバッフル、およびフィルターパネルが正しく取り付けられていることを確認します。
- 通気を妨げないように、ケーブルを配線してください。

関連情報

- [15 ページの「物理仕様」](#)
- [16 ページの「電気仕様」](#)
- [17 ページの「入力電力の情報」](#)
- [17 ページの「過電流保護の要件」](#)
- [18 ページの「環境要件」](#)
- [20 ページの「通気に関する注意事項」](#)

設置の準備

これらのトピックでは、サーバーの設置を準備する方法について説明します。

- [21 ページの「出荷キットの内容一覧」](#)
- [22 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [23 ページの「静電放電に関する注意事項」](#)
- [23 ページの「設置に必要な工具」](#)

関連情報

- [9 ページの「サーバーの概要」](#)
- [15 ページの「仕様の確認」](#)
- [25 ページの「サーバーの設置」](#)
- [53 ページの「ケーブルの接続」](#)
- [63 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」](#)

出荷キットの内容一覧

標準のシステムコンポーネントは工場に取り付けられています。PCIe カードやモニターなどのオプションは個別に出荷されます。

注記 - 出荷用梱包箱を検査して、物理的な損傷がないかどうかを確認してください。出荷用梱包箱に損傷がある場合は、開梱の際に運送業者の立ち会いをリクエストしてください。業者が検査できるように、箱の中身と梱包材はすべて保管しておいてください。

サーバーの部品がすべて届いていることを確認します。

- サーバー
- ラックマウントキット
- 各種ラックやキャビネットに適合した、さまざまなサイズの取り付けねじおよびナットのパッケージ
- アース端子と M5 ナット 2 個

- ハードウェア、ケーブル、ドキュメント、コネクタ
- サーバーと一緒に注文したすべてのオプションのコンポーネント

関連情報

- [22 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [23 ページの「静電放電に関する注意事項」](#)
- [23 ページの「設置に必要な工具」](#)
- [26 ページの「ラックに関する注意事項」](#)
- [27 ページの「ラックを固定する」](#)

取り扱い上の注意



注意 - 取り付けを開始する前に、装置ラックに転倒防止バーを設置してください。



注意 - サーバーは重量があります。このドキュメントの手順に従って、サーバーを持ち上げてラックエンクロージャーに取り付けるには、2 人の作業員が必要です。[15 ページの「物理仕様」](#)を参照してください。



注意 - 2 人で行う手順については、各手順の前後および作業中に常に意思の疎通を図り、混乱が起こらないようにしてください。

関連情報

- [21 ページの「出荷キットの内容一覧」](#)
- [23 ページの「静電放電に関する注意事項」](#)
- [23 ページの「設置に必要な工具」](#)

- [25 ページの「オプションのコンポーネント」](#)
- [26 ページの「ラックに関する注意事項」](#)
- [27 ページの「ラックを固定する」](#)

静電放電に関する注意事項

電子機器は、静電気により損傷する可能性があります。サーバーの設置または保守作業時は、接地された静電気防止リストストラップ、フットストラップ、または同様の安全器具を使用して、静電気による損傷 (ESD) を防止します。



注意 - 静電気により損傷を受けると、サーバーを永久に使用できなくなったり、サービス技術者による修理が必要になる場合があります。静電気から電子部品を保護するには、部品を静電気防止マット、静電気防止バッグまたは使い捨ての静電気防止マットなどの帯電防止面に置きます。サーバーコンポーネントを取り扱うときは、シャーシの金属面に接続された静電気防止用アースストラップを着用してください。

関連情報

- [21 ページの「出荷キットの内容一覧」](#)
- [22 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [23 ページの「設置に必要な工具」](#)
- [25 ページの「オプションのコンポーネント」](#)
- [26 ページの「ラックに関する注意事項」](#)
- [27 ページの「ラックを固定する」](#)

設置に必要な工具

サーバーを設置するには、次の工具が必要です。

- プラスのねじ回し (Phillips の 2 番)
- ESD マットおよび接地ストラップ

最初のインストール構成で、コンソールデバイスとして使用する端末デバイスを用意する必要があります。次のタイプのデバイスを使用できます。

- ASCII 端末
- ワークステーション
- 端末サーバー

- 端末エミュレーションソフトウェアを実行するノートパソコンなどのコンピュータ
- 端末サーバーに接続されたパッチパネル
- コンソールデバイスを SER MGT ポートに接続するために必要なケーブル。

関連情報

- [21 ページの「出荷キットの内容一覧」](#)
- [22 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [23 ページの「静電放電に関する注意事項」](#)
- [25 ページの「オプションのコンポーネント」](#)
- [26 ページの「ラックに関する注意事項」](#)
- [27 ページの「ラックを固定する」](#)

サーバーの設置

これらのトピックでは、サーバーを機器ラックに取り付ける方法について説明します。

手順	説明	リンク
1.	オプションのコンポーネントを取り付けます。	25 ページの「オプションのコンポーネント」
2.	注意事項を確認します。	22 ページの「取り扱い上の注意」
3.	ラックを固定します。	27 ページの「ラックを固定する」
4.	サーバーをラックに設置します。	■ 27 ページの「標準 19 インチハードマウントキット (4 ポストラック) の取り付け」 ■ 33 ページの「CMA 付き 19 インチスライドレールキットの取り付け」 ■ 44 ページの「19 インチハードマウントキット (2 ポストラック) の取り付け」

関連情報

- [9 ページの「サーバーの概要」](#)
- [15 ページの「仕様の確認」](#)
- [21 ページの「設置の準備」](#)
- [53 ページの「ケーブルの接続」](#)
- [63 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」](#)

オプションのコンポーネント

サーバーの一部として注文された増設メモリーや PCIe カードなどのオプションのコンポーネントは、サーバーの出荷前に工場でサーバーに取り付けられます。サーバーと一緒に注文されていないオプションは別に出荷されます。可能な場合は、サーバーをラックに取り付ける前に、これらのコンポーネントを取り付けてください。

ラックマウントキットを除いて、工場で取り付けられないオプションを注文した場合は、取り付け手順について、[Netra SPARC S7-2 サーバーサービスマニュアル](#)およびコンポーネントのドキュメントを参照してください。

関連情報

- [21 ページの「出荷キットの内容一覧」](#)
- [26 ページの「ラックに関する注意事項」](#)

ラックに関する注意事項



注意 - 装置の搭載。上方が重くなり転倒することがないように、装置は必ずラックの最下段から上へ順次搭載してください。転倒防止機構を装備しているラックであれば、サーバー取り付け時に活用してください。



注意 - 動作時周辺温度の上昇。密閉されたラックアセンブリまたはマルチユニットのラックアセンブリにサーバーを設置している場合、ラック環境の動作時周辺温度が室内の周辺温度より高くなる場合があります。したがって装置は、サーバーに指定された TMA に適合する環境内にのみ設置してください。



注意 - 通気の低下。装置をラックに取り付けて、装置が安全に動作するための十分な通気を得られるようにします。



注意 - 機械的荷重。重量が均等に分散されるように装置をラックに取り付けます。機械的荷重が不均等な場合、危険な状態になっている可能性があります。



注意 - 回路の過負荷。電源装置の回路に過大な電流が流れないようにします。サーバーを電源回路に接続する前に、装置のラベルに示されている電力定格を確認し、回路の過負荷によって過電流保護や装置の配線にどのような影響があるかを検討します。



注意 - 安全な接地。ラックに搭載する装置は必ず安全に接地します。分岐回路への直接接続以外の電源接続 (電源タップの使用など) の場合は、特に注意してください。



注意 - スライドレールに搭載した装置を、シェルフやワークスペースとして使用しないでください。

関連情報

- [22 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [23 ページの「静電放電に関する注意事項」](#)
- [27 ページの「ラックを固定する」](#)

▼ ラックを固定する



注意 - 作業員が負傷する危険性を低減するために、ラックキャビネットを固定し、すべての転倒防止装置を伸ばしてから、サーバーを取り付けます。

次の手順の詳細な説明については、ラックのドキュメントを参照してください。

注記 - このドキュメントでは、用語「ラック」とはオープンラックまたはクローズキャビネットを意味します。

1. ラックキャビネットの前面ドアと背面ドアを開いて取り外します。
2. 取り付け中にラックキャビネットが転倒しないように、あらゆる転倒防止策を講じてキャビネットを安定させます。
3. 横転を防ぐための平行調整脚がラックの下部にある場合は、それらの調整脚を床まで完全に伸ばします。
4. ラックキャビネットの転倒防止脚または転倒防止バーを完全に伸ばします。これらは、ラックキャビネットの前面の下にあります。

関連情報

- ラックキャビネットのドキュメント
- [Netra SPARC S7-2 Server Safety and Compliance Guide, Compliance Model No.: 9600](#)
- [21 ページの「出荷キットの内容一覧」](#)
- [22 ページの「取り扱い上の注意」](#)

標準 19 インチハードマウントキット (4 ポストラック) の取り付け

ここでは、サーバーに付属する 19 インチ 4 ポストハードマウントキットでの取り付け手順について説明します。

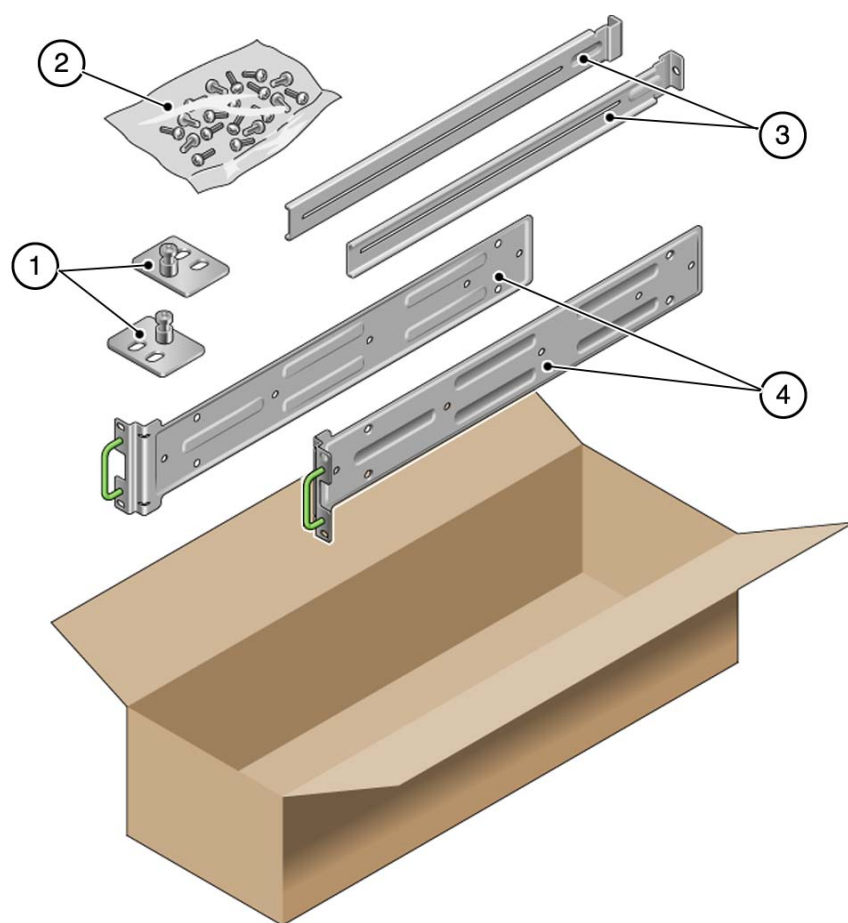
- [28 ページの「19 インチハードマウントキット \(4 ポストラック\) のコンポーネント」](#)
- [29 ページの「サーバーを取り付ける \(4 ポスト 19 インチハードマウントラックキット\)」](#)

関連情報

- [23 ページの「設置に必要な工具」](#)

- 22 ページの「取り扱い上の注意」
- 26 ページの「ラックに関する注意事項」

19 インチハードマウントキット (4 ポストラック) のコンポーネント



番号	説明
1	背面取り付けフランジ (2 つ)
2	ねじ
3	背面固定部品 (2 つ)

番号	説明
4	ハードマウント固定部品 (2 つ)

関連情報

- [29 ページの「サーバーを取り付ける \(4 ポスト 19 インチハードマウントラックキット\)」](#)
- [23 ページの「設置に必要な工具」](#)
- [22 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [26 ページの「ラックに関する注意事項」](#)

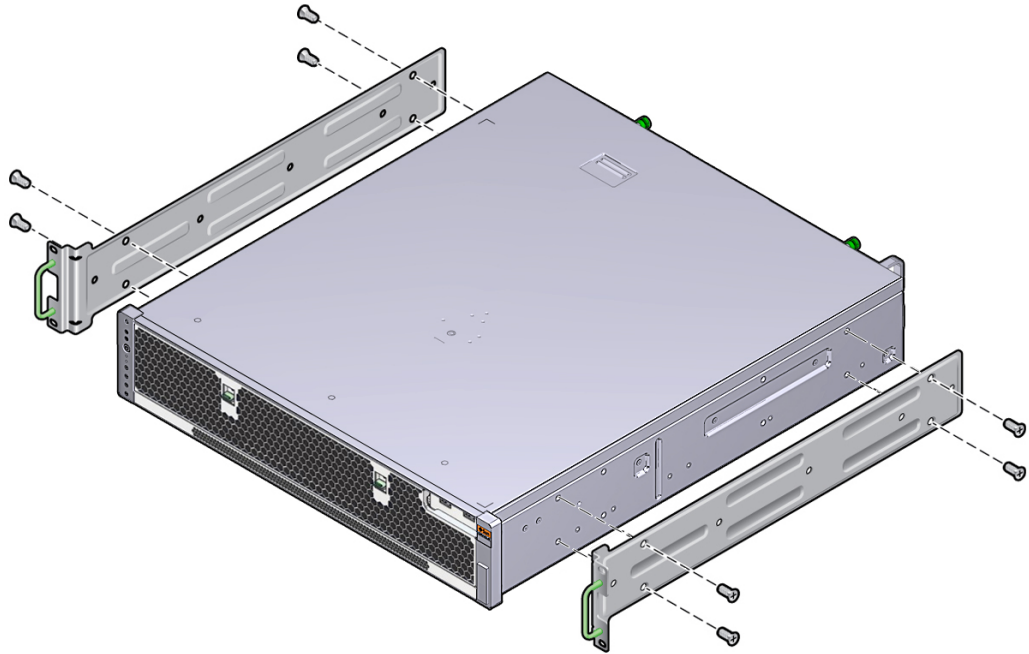
▼ サーバーを取り付ける (4 ポスト 19 インチハードマウントラックキット)



注意 - ラックにサーバーを取り付けるには、ここに示す 4 ポスト 19 インチハードマウントキットの手順に従う必要があります。この手順に従わずにサーバーを取り付けた場合は、サポートの対象外となります。

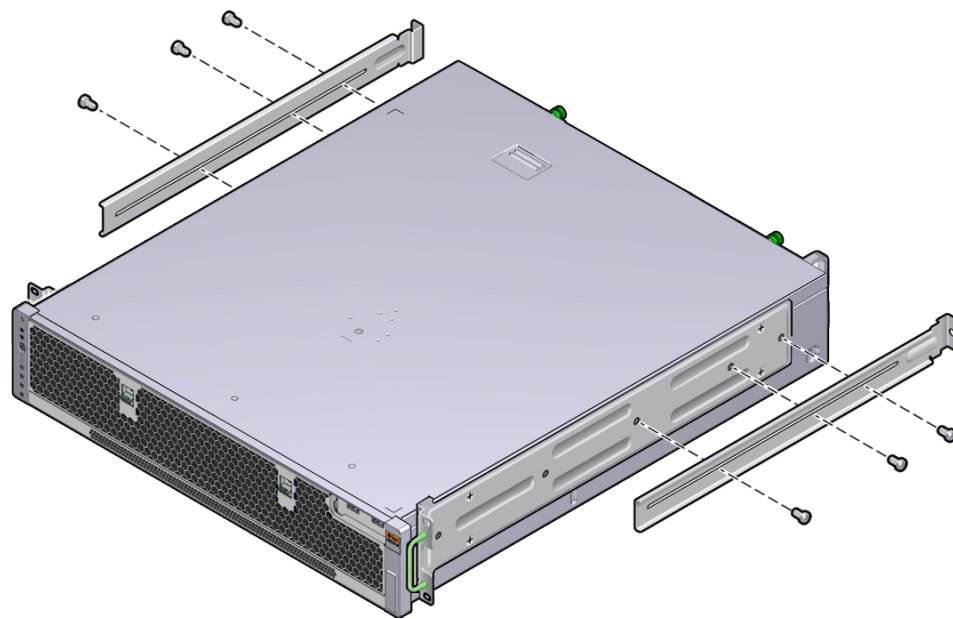
1. 必要な工具類を用意します。
[23 ページの「設置に必要な工具」](#)を参照してください。
2. サーバーに関する注意事項をお読みください。
[22 ページの「取り扱い上の注意」](#)および[23 ページの「静電放電に関する注意事項」](#)を参照してください。
3. ラックに関する注意事項を読み、ラックを固定します。
[26 ページの「ラックに関する注意事項」](#)および[27 ページの「ラックを固定する」](#)を参照してください。
4. データセンターの既存のサーバーのラックキットを変更する場合は、これらの手順を実行します。
 - a. サーバーをシャットダウンし、電源ケーブルとデータケーブルを取り外します。
 - b. サーバーをラックから取り外し、静電気防止用マットの上に置きます。
 - c. 該当する場合は、既存の固定部品をサーバーとラックから取り外します。
5. ハードマウント部品をサーバーの側面に固定します。

各固定部品には 4 つの M5 × 4.5 mm プラス平頭ねじを使用します。



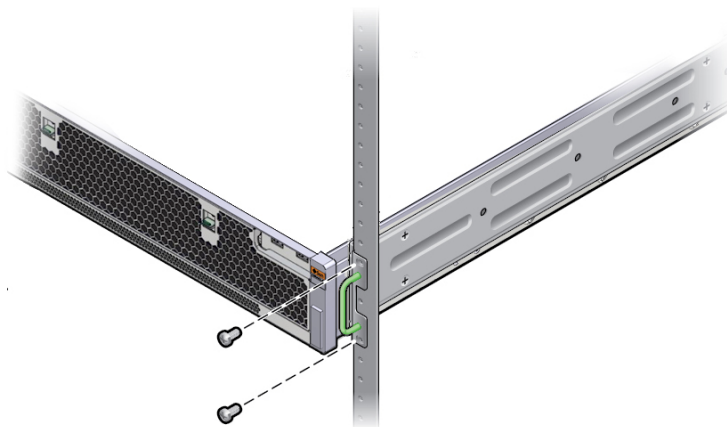
6. ラックの奥行きを測定します。
測定には、次の手順を実行します。
7. 背面固定部品をサーバーの背面側に取り付けます。このとき、測定したラックの奥行きに合わせて背面固定部品を伸ばします。

ラックの奥行きに応じて、各固定部品に対して付属の M4 × 0.5 × 5 mm プラスネジを 2 本または 3 本使用します。

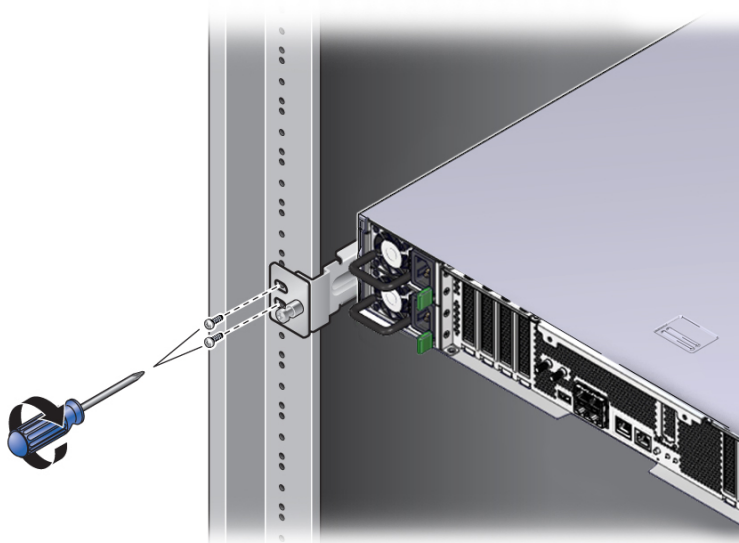


8. ラックの取り付け位置までサーバーを持ち上げます。
9. ハードマウント固定部品の前面を固定します。

ポストごとに 2 本のねじを使用します。



10. 背面固定部品をラックの背面に固定します。
背面固定部品ごとに 2 本のねじを使用します。



11. 必要なケーブルとオプションのケーブルを接続します。
[53 ページの「ケーブルの接続」](#)を参照してください。

12. 次に実行する手順を確認します。

- 既存のサーバーの場合、サービスマニュアルの手順に従って、サーバーを再稼働させます。
- 新しいサーバーの場合は、このガイドの手順に従って、設置を続行します。

関連情報

- [28 ページの「19 インチハードマウントキット \(4 ポストラック\) のコンポーネント」](#)
- [23 ページの「設置に必要な工具」](#)
- [22 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [26 ページの「ラックに関する注意事項」](#)

CMA 付き 19 インチスライドレールキットの取り付け

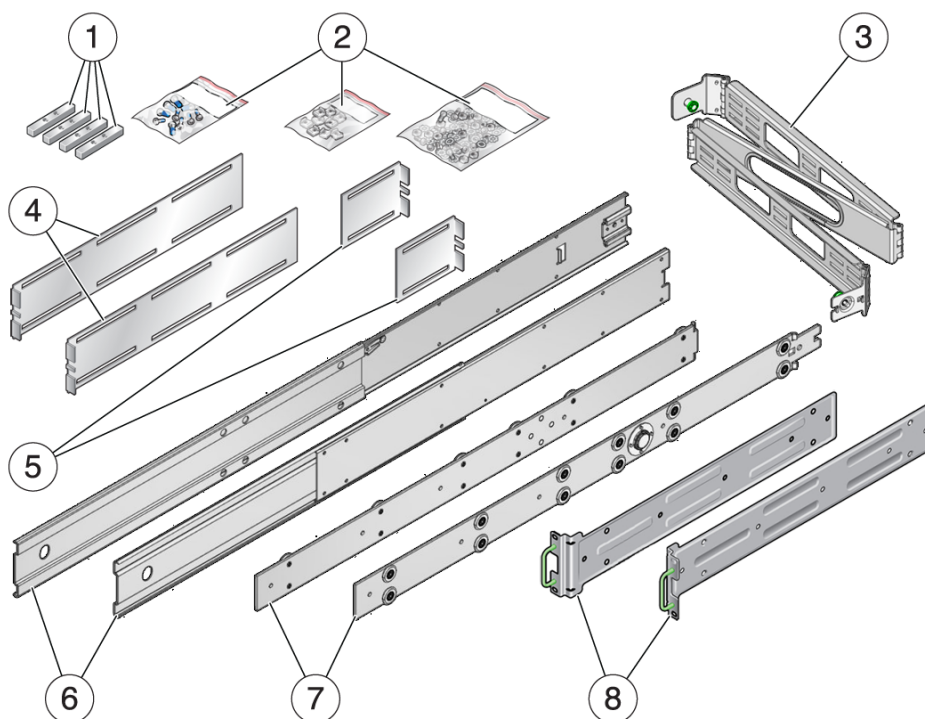
これらのトピックでは、オプションの CMA 付き 19 インチスライドレールキットを使用してサーバーを設置する方法について説明します。

- [34 ページの「CMA 付き 19 インチスライドレールキットのコンポーネント」](#)
- [35 ページの「サーバーを取り付ける \(CMA 付き 4 ポスト 19 インチスライドレールラックキット\)」](#)

関連情報

- [23 ページの「設置に必要な工具」](#)
- [22 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [26 ページの「ラックに関する注意事項」](#)

CMA 付き 19 インチスライドレールキットのコンポーネント



番号	説明
1	ねじプレート (4 つ)
2	ねじおよびナットパッケージ
3	ケーブル管理アーム
4	前面 L 型固定金具 (2 つ)
5	背面 L 型固定金具 (2 つ)
6	スライド構成部品 (2 つ)
7	グライド構成部品 (2 つ)
8	標準レールキットからのハードマウント固定部品 (2 つ)

関連情報

- [35 ページの「サーバーを取り付ける \(CMA 付き 4 ポスト 19 インチスライドレールラックキット\)」](#)

- [23 ページの「設置に必要な工具」](#)
- [22 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [26 ページの「ラックに関する注意事項」](#)

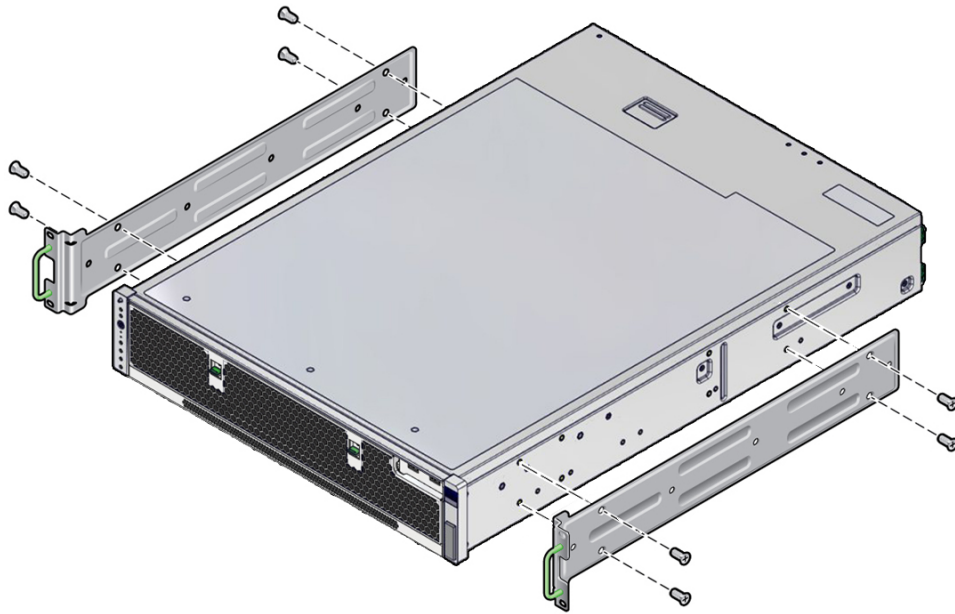
▼ サーバーを取り付ける (CMA 付き 4 ポスト 19 インチスライドレールラックキット)



注意 - ラックにサーバーを取り付けるには、次に示す CMA 付き 4 ポスト 19 インチスライドレールキットの手順に従う必要があります。この手順に従わずにサーバーを取り付けた場合は、サポートの対象外となります。

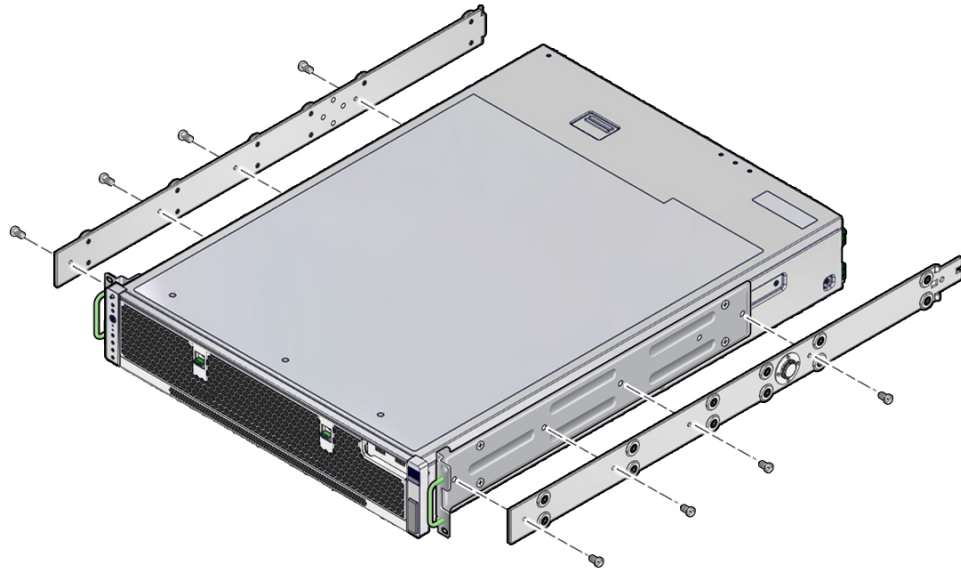
1. 必要な工具類を用意します。
[23 ページの「設置に必要な工具」](#)を参照してください。
2. サーバーに関する注意事項をお読みください。
[22 ページの「取り扱い上の注意」](#)および[23 ページの「静電放電に関する注意事項」](#)を参照してください。
3. ラックに関する注意事項を読み、ラックを固定します。
[26 ページの「ラックに関する注意事項」](#)および[27 ページの「ラックを固定する」](#)を参照してください。
4. データセンターの既存のサーバーのラックキットを変更する場合は、これらの手順を実行します。
 - a. サーバーをシャットダウンし、電源ケーブルとデータケーブルを取り外します。
 - b. サーバーをラックから取り外し、静電気防止用マットの上に置きます。
 - c. 該当する場合は、既存の固定部品をサーバーとラックから取り外します。
5. 標準のハードマウントレールキットと CMA 付きスライドレールキットを開き、すべてのコンポーネントが存在していることを確認します。
標準ハードマウントキットからハードマウント固定部品と 4 本の M5 × 4.5 mm プラス皿頭ねじを取り出します。
6. 前面、右、左のハードマウント固定部品をサーバーの側面に固定します。

側面ごとに 4 本の M5 × 4.5 mm プラス平頭ねじを使用します。



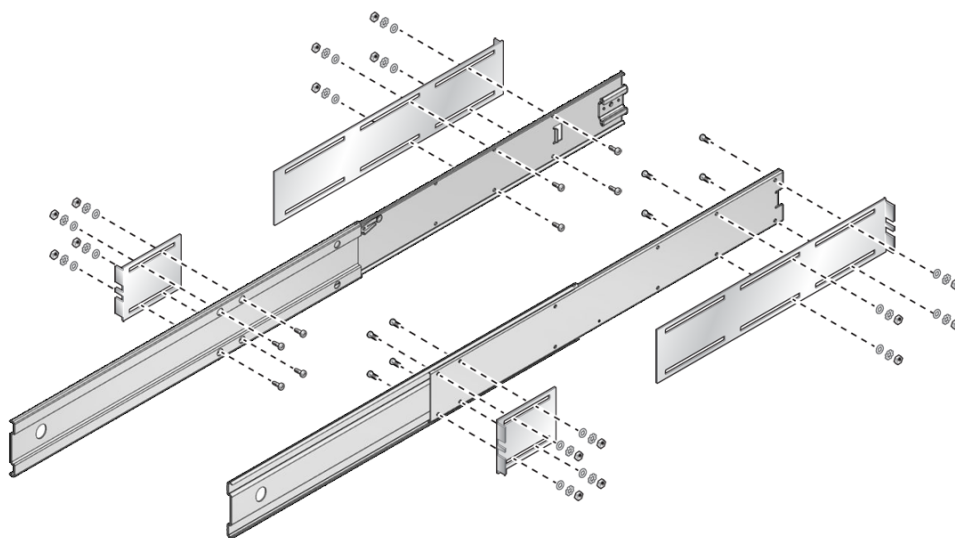
7. リリースボタンを押して、スライドレールを分解し、スライドレールからレールグライドを引き出します。
8. レールグライドをハードマウント固定部品に取り付けます。

レールガイドごとに 4 本の M5 × 4.5 mm なべ頭ねじを使用します。



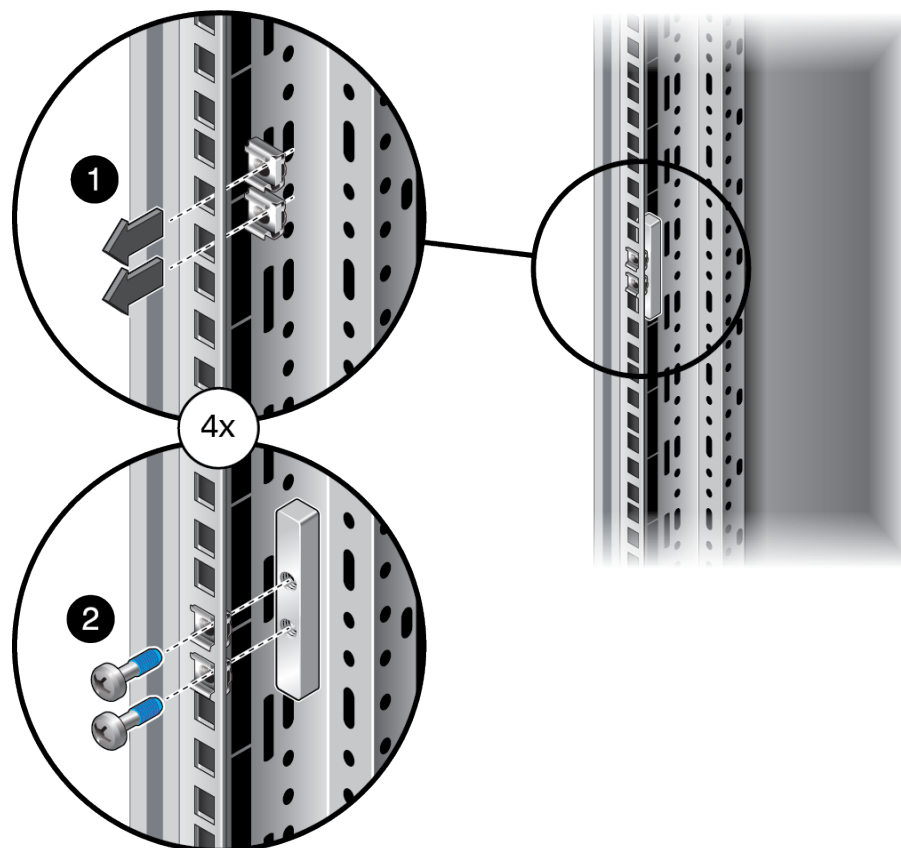
9. L 型固定部品をスライドレールにゆるく取り付けます。

L 型固定部品ごとに、4 本の M5 × 12 mm なべ頭ねじ、4 つの平ワッシャー、4 つの歯付きワッシャー、4 つのナットを使用します。



10. 適切な高さにある 4 つのポストにねじプレートとケージナットをゆるく取り付けます。

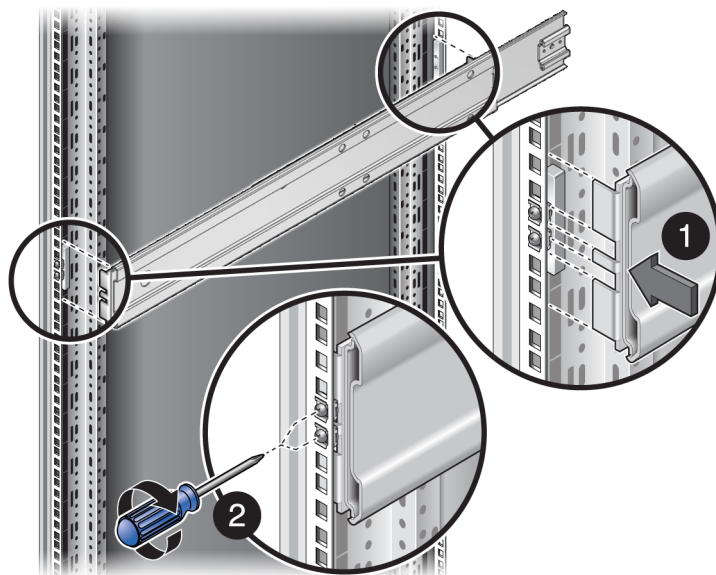
ねじプレートごとに、2 つのケージナットと 2 本の M6 肩付きねじを使用します。



11. サーバーをラックに固定するために使用する 2 つのケージナットを 2 つの前面ポストに取り付けます。

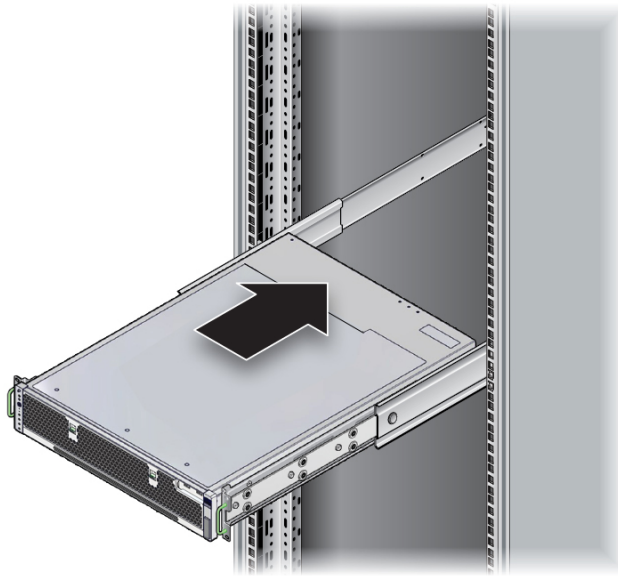
ハードマウント固定部品のねじ穴とケージナットの位置を合わせます (上と下)。セキュリティーねじを各ハードマウント固定部品から、ケージナットに通して、レールに取り付けます。

12. スライドレール、L 型固定部品構成部品をねじプレートに取り付けます。



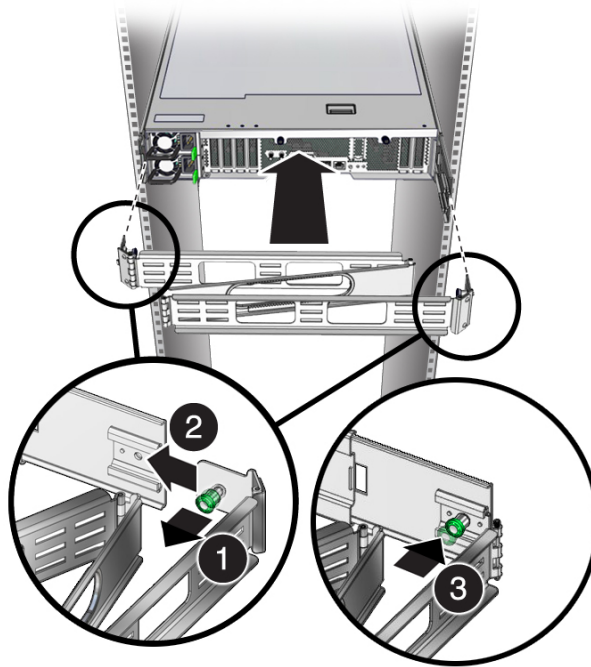
13. L 型固定部品構成部品をポストに固定します。
14. スライドレールのねじを締めます。

15. スライド構成部品のロックが開くまで伸ばし、ゆっくりとサーバーをスライド構成部品に取り付けます。



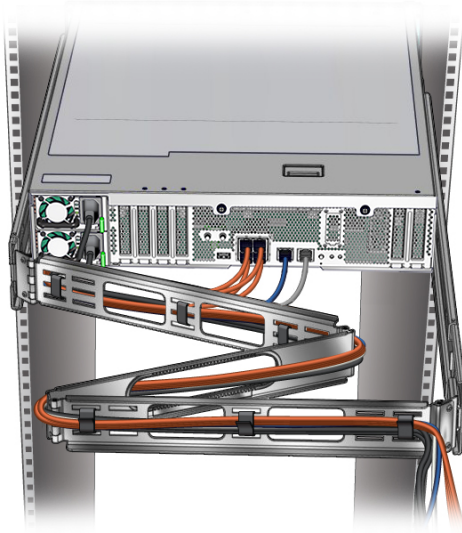
16. リリースボタンを押して、サーバーをスライドさせて完全にラックに押し込みます。
17. CMA の右および左側をスライド構成部品の背面 (右) およびサーバー (左) に固定します。

緑色のばね付きハンドルが内側を向くようにします。緑色のハンドルを引っ張り出し、穴の位置が合ったら離します。CMA の左側のフランジが左側のグライドレールの端にある鍵穴ノッチにはまります。

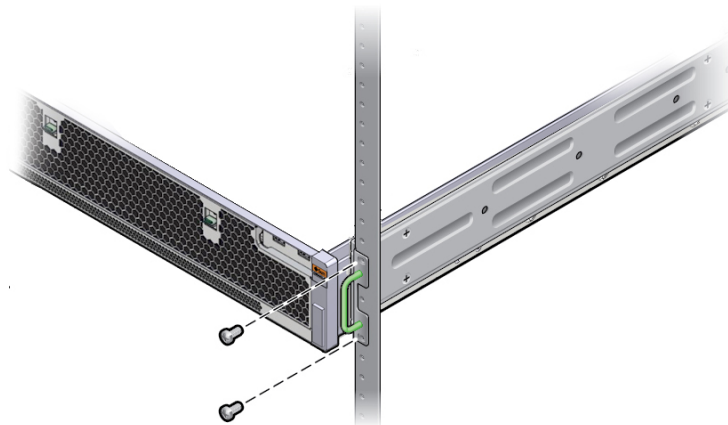


18. サーバーを保守位置に引き出して、CMA が適切に引き伸ばされることを確認します。

19. ケーブルを CMA に配線して固定します。



20. セキュリティーねじを取り付けて、サーバーをラックに固定します。
図は、わかりやすいように、スライドレールなしで示しています。



21. 次に実行する手順を確認します。

- 既存のサーバーの場合、サービスマニュアルの手順に従って、サーバーを再稼働させます。
- 新しいサーバーの場合は、このガイドの手順に従って、設置を続行します。

関連情報

- [34 ページの「CMA 付き 19 インチスライドレールキットのコンポーネント」](#)
- [23 ページの「設置に必要な工具」](#)
- [22 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [26 ページの「ラックに関する注意事項」](#)

19 インチハードマウントキット (2 ポストラック) の取り付け

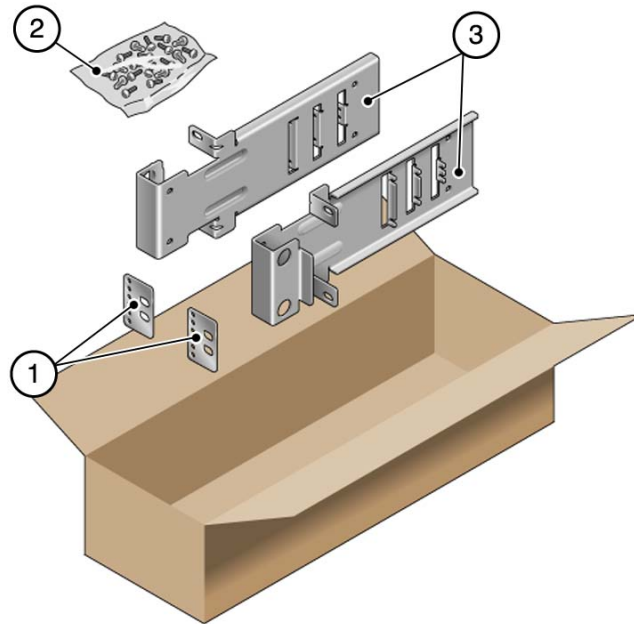
次のトピックを参照して、オプションの 19 インチハードマウントラックキットを使用し、サーバーを 19 インチ幅の 2 ポストラックに取り付けます。

- [45 ページの「19 インチハードマウントラックキット \(2 ポストラック\) コンポーネント」](#)
- [46 ページの「サーバーを取り付ける \(2 ポスト 19 インチハードマウントラックキット\)」](#)

関連情報

- [23 ページの「設置に必要な工具」](#)
- [22 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [26 ページの「ラックに関する注意事項」](#)

19 インチハードマウントラックキット (2 ポ스트ラック) コンポーネント



番号	説明
1	背面プレート (2 つ)
2	ねじ
3	側面固定部品 (2 つ)

関連情報

- [46 ページの「サーバーを取り付ける \(2 ポスト 19 インチハードマウントラックキット\)」](#)
- [23 ページの「設置に必要な工具」](#)
- [22 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [26 ページの「ラックに関する注意事項」](#)

▼ サーバーを取り付ける (2 ポスト 19 インチハードマウントラックキット)

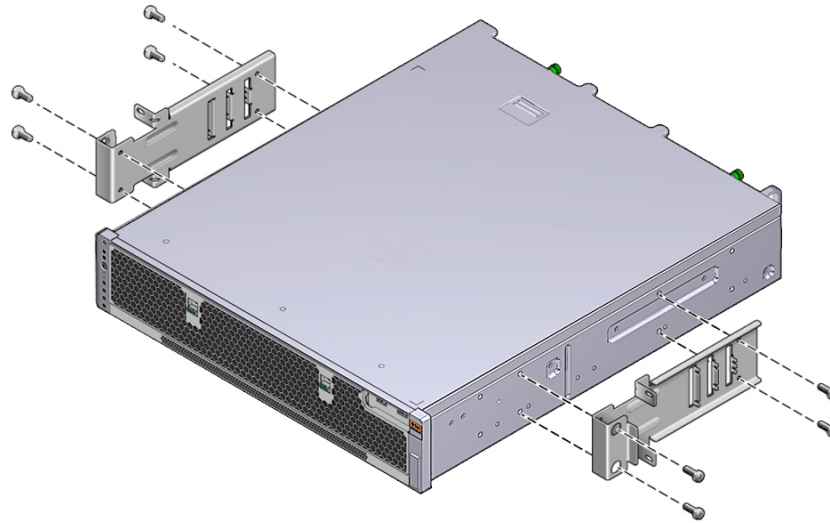
注記 - 19 インチ 2 ポストラックマウントキットでは、ラックのウェブ厚 (ラックポストの幅) として 76.20 mm (3 インチ)、101.6 mm (4 インチ)、および 127 mm (5 インチ) をサポートしています。



注意 - ラックにサーバーを取り付けるには、ここに示す 2 ポスト 19 インチハードマウントキットの手順に従う必要があります。この手順に従わずにサーバーを取り付けた場合は、サポートの対象外となります。

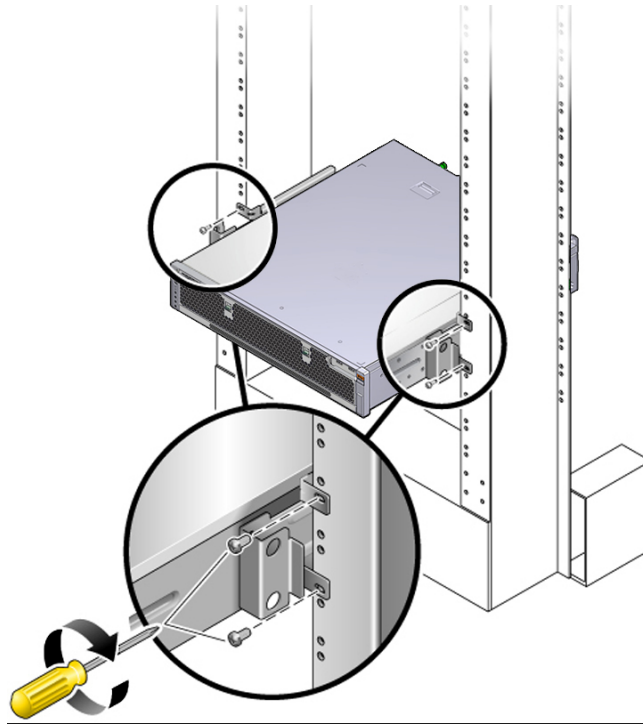
1. 必要な工具類を用意します。
[23 ページの「設置に必要な工具」](#)を参照してください。
2. サーバーに関する注意事項をお読みください。
[22 ページの「取り扱い上の注意」](#)および[23 ページの「静電放電に関する注意事項」](#)を参照してください。
3. ラックに関する注意事項を読み、ラックを固定します。
[26 ページの「ラックに関する注意事項」](#)および[27 ページの「ラックを固定する」](#)を参照してください。
4. データセンターの既存のサーバーのラックキットを変更する場合は、これらの手順を実行します。
 - a. サーバーをシャットダウンし、電源ケーブルとデータケーブルを取り外します。
 - b. サーバーをラックから取り外し、静電気防止用マットの上に置きます。
 - c. 該当する場合は、既存の固定部品をサーバーとラックから取り外します。
5. 側面固定部品をサーバーの側面に固定します。

側面固定部品ごとに 4 本の M5 × 7 SEM ねじを使用します。



6. サーバーをラックまで持ち上げます。
7. 各固定部品にねじを 2 本ずつ使用して、サーバーの前面をラックの前面に固定します。

使用しているラックによって、ねじのサイズが異なります。

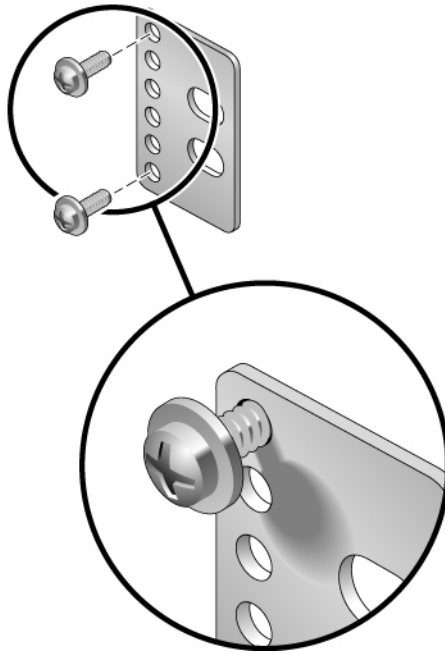


8. (オプション) 使用環境で特に強い振動が発生する場合は、背面プレートを使用してサーバーをラックにさらに固定します。

背面プレートは、ポストの厚さに応じて、ポストの背面および各側面固定部品の 3 つのねじ受けセットのいずれかに取り付けます。

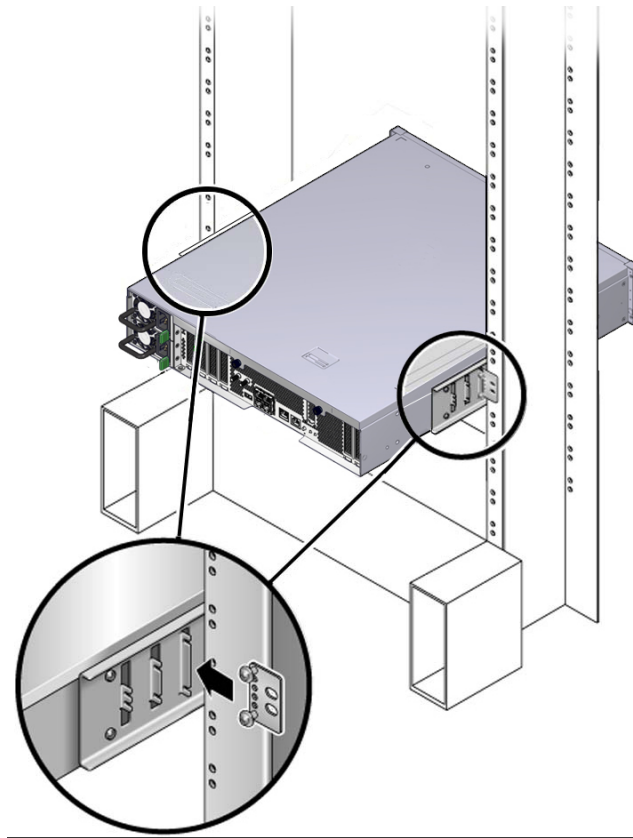
- a. 背面プレートの 6 つの位置のいずれかにねじをゆるく取り付けます。

背面プレートごとに 2 本の M3 × 8 SEM ネジを使用します。位置は、ラック内のレールの厚さによって決まります。たとえば、この図は、背面プレート上での最適なラック位置のねじの取り付け位置を示しています。



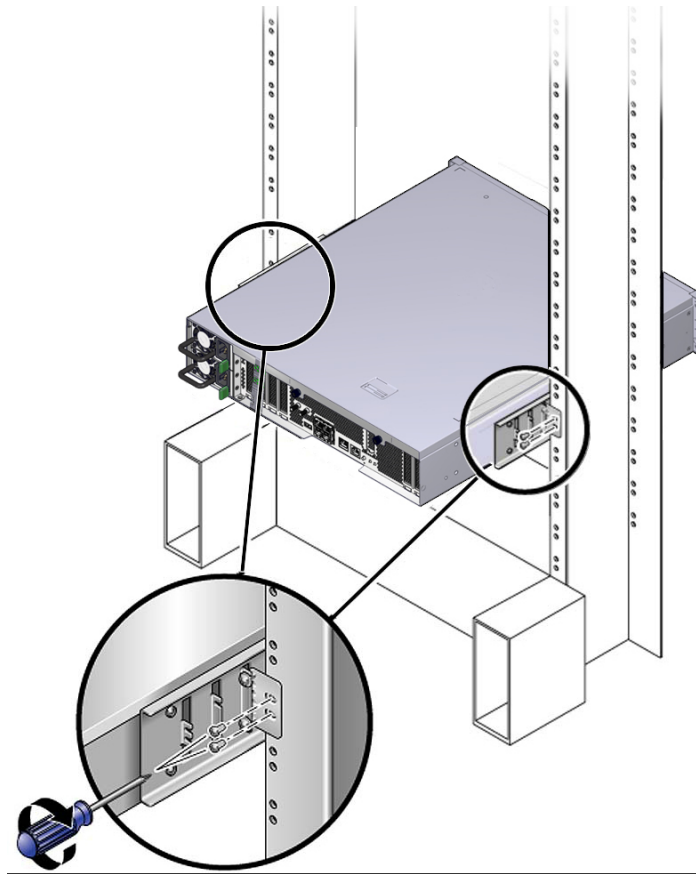
- b. 背面パネルを内側にスライドさせて、ねじ受けのいずれかのセットにねじがはまるようにします。

ねじ頭がサーバーの背面側を向き、背面プレートのもう一方の側がラックポストの手前になるようにします。



- c. ねじをきつく締めて、背面プレートを側面固定部品のねじ受けのセットに固定します。
- d. 背面プレートのもう一方の側をポストの背面に固定します。

ポストあたり 2 本のねじを使用します。使用しているラックによって、ねじのサイズが異なります。



9. 必要なケーブルとオプションのケーブルを接続します。
[53 ページの「ケーブルの接続」](#)を参照してください。
10. 次に実行する手順を確認します。
 - 既存のサーバーの場合、サービスマニュアルの手順に従って、サーバーを再稼働させます。
 - 新しいサーバーの場合は、このガイドの手順に従って、設置を続行します。

関連情報

- [23 ページの「設置に必要な工具」](#)
- [22 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [26 ページの「ラックに関する注意事項」](#)

ケーブルの接続

サーバーの電源を入れる前に、次のタスクを実行して、ネットワークおよびシリアルポートを接続して構成します。

手順	説明	リンク
1.	使用可能な接続を確認します。	53 ページの「使用可能な接続」
2.	SP にケーブルを接続します。	56 ページの「SP にケーブルを接続する」 58 ページの「SER MGT ポート」 59 ページの「NET MGT ポート」 60 ページの「USB ポート」
3.	Ethernet ポートにケーブルを接続します。	56 ページの「Ethernet ポートにケーブルを接続する」 59 ページの「10 ギガビット Ethernet ポート」
4.	(オプション) その他のデータケーブルを接続します。	57 ページの「その他のデータケーブルを接続する」 60 ページの「USB ポート」 PCIe カードのドキュメント

関連情報

- [9 ページの「サーバーの概要」](#)
- [15 ページの「仕様の確認」](#)
- [21 ページの「設置の準備」](#)
- [25 ページの「サーバーの設置」](#)
- [63 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」](#)

使用可能な接続

サーバーの電源を入れる前に、SP とサーバーを接続します。

このトピックの情報を参照して、これらの接続を計画します。必要なネットワークアドレスとケーブルを用意します。

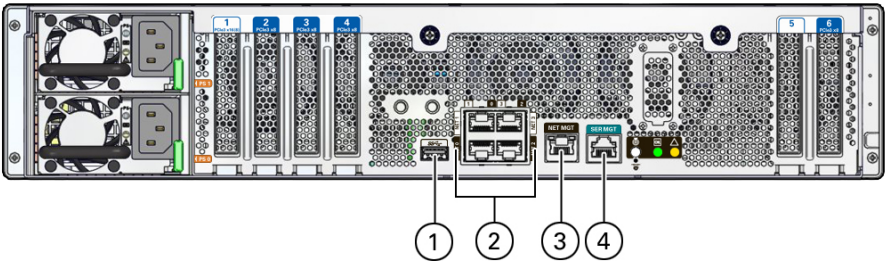


注意 - NEBS の雷に関する要件に準拠するため、すべての I/O 接続 (Ethernet および電源接続を除く) でシールドケーブルを使用し、シールドの両端を接地する必要があります。



注意 - すべてのデータケーブルの接続を建物内のインタフェースに制限し、施設外とつながっている配線と分離する必要があります。プライマリプロテクタを使用してもこの制限を除外することはできません。これらの接続は、施設外に接続するインタフェースまたはその配線に金属的に接続しないでください。

次の図と表に、使用可能なポートを説明し、それらを使用するために何が必要かを示します。



番号	ポート	説明	必要
1	USB	ホストへの USB 接続を提供します。さらに、サーバーの前面の 2 つの USB ポートを使用できます。	■ USB キーボード ■ USB マウス ピン配列情報については、60 ページの「USB ポート」を参照してください。
2	NET (0 - 3)	4 つの 10 ギガビット Ethernet ポートを使用すると、サーバーをネットワークに接続できます。	■ NET 0 ポートをネットワークに接続するための Ethernet ケーブル。 ■ IP アドレスなどのネットワークパラメータ (DHCP サービスによって提供されるか、OS で静的アドレスを割り当てられる)。 ■ NET 1 - 3 への追加の接続などに必要な追加のケーブルや Ethernet アドレス。 ピン配列情報については、59 ページの「10 ギガビット Ethernet ポート」を参照してください。
3	NET MGT	RJ-45 コネクタ経由の 10/100/1000BASE-T Ethernet 接続。このポートは Oracle ILOM CLI および Web インタフェースを使用した SP へのリモート接続をサポートします。 このポートはデフォルトで、DHCP または IPv6 ルーターを使用して自動的に IP アドレスを取得するように構成され	■ NET MGT ポートをネットワークに接続するための Ethernet ケーブル。 ■ このポートの IP アドレス (DHCP または静的アドレスで必要)

番号	ポート	説明	必要
4	SER MGT	ています。代わりに、静的 IP アドレスをこのポートに割り当てることもできます。 このポートを使用するには、そのネットワーク設定が構成されている必要があります。構成されたら、ブラウザまたは Secure shell で NET MGT ポート IP アドレスを使用して、SP にログインします。 RJ-45 コネクタ経由のシリアル接続。このポートは SP へのローカル接続をサポートし、Oracle ILOM との CLI のやりとりにより制限されます。 デフォルトの設定は次のとおりです。 ■ 8N1 — 8 データビット、パリティなし、1 ストップビット ■ 9600 ボー ■ ハードウェアフロー制御を無効化 (CTS/RTS) ■ ソフトウェアフロー制御を無効化 (XON/XOFF)	ピン配列情報については、59 ページの「NET MGT ポート」を参照してください。 注記 - 環境で DHCP サービスを提供していない場合は、まず SER MGT ポートを使用して、NET MGT ポートパラメータを構成します。 ■ 端末デバイスとは、端末、端末サーバーへの接続、または端末エミュレーションソフトウェアが動作しているノートパソコンなどのコンピュータのことです。 ■ 端末デバイスを SER MGT ポートに接続するためのケーブル。 ピン配列情報については、58 ページの「SER MGT ポート」を参照してください

関連情報

- [56 ページの「SP にケーブルを接続する」](#)
- [56 ページの「Ethernet ポートにケーブルを接続する」](#)
- [57 ページの「その他のデータケーブルを接続する」](#)
- [57 ページの「ポートの識別」](#)
- [13 ページの「背面パネルのコンポーネント \(設置\)」](#)

データケーブルおよび管理ケーブルの接続

次のトピックでは、サーバーの電源を入れる前に、ケーブルを接続する必要があるポートについて説明します。

- [53 ページの「使用可能な接続」](#)
- [56 ページの「SP にケーブルを接続する」](#)
- [56 ページの「Ethernet ポートにケーブルを接続する」](#)
- [57 ページの「その他のデータケーブルを接続する」](#)

関連情報

- [57 ページの「ポートの識別」](#)
- [13 ページの「背面パネルのコンポーネント \(設置\)」](#)

▼ SP にケーブルを接続する

SP はマザーボードに統合されています。SP に接続するには、サーバーの背面の SER MGT ポートを使用します。

- 次の接続のうち、環境で動作する接続を判断し、接続を確立します。

- SER MGT ポート
- NET MGT ポート
- USB キーボードとマウス

これらの接続の任意の組み合わせを構成できます。[53 ページの「使用可能な接続」](#)を参照してください。

関連情報

- [53 ページの「使用可能な接続」](#)
- [56 ページの「Ethernet ポートにケーブルを接続する」](#)
- [57 ページの「その他のデータケーブルを接続する」](#)
- [57 ページの「ポートの識別」](#)
- [13 ページの「背面パネルのコンポーネント \(設置\)」](#)

▼ Ethernet ポートにケーブルを接続する

サーバーが OS を実行すると、これらの接続がサーバーへの Ethernet アクセスを提供します。[59 ページの「10 ギガビット Ethernet ポート」](#)を参照してください。

注記 - Oracle ILOM サイドバンド管理機能により、これらの Ethernet ポートの 1 つを使用すると、SP にアクセスできます。手順については、<http://www.oracle.com/goto/ilom321/docs>にある『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイドファームウェア Release 3.2.x』を参照してください。

1. カテゴリ 6 (またはそれ以上) のケーブルを、ネットワークスイッチまたはハブからシャーシの背面にある Ethernet ポート 0 (NET 0) に接続します。
2. (オプション) カテゴリ 6 以上のケーブルを、ネットワークスイッチまたはハブから残りの Ethernet ポートに接続します。

関連情報

- [53 ページの「使用可能な接続」](#)

- [56 ページの「SP にケーブルを接続する」](#)
- [57 ページの「その他のデータケーブルを接続する」](#)
- [57 ページの「ポートの識別」](#)
- [13 ページの「背面パネルのコンポーネント \(設置\)」](#)

▼ その他のデータケーブルを接続する

- インストールにオプションの PCIe カード、USB デバイス、またはアラームが含まれている場合は、それらのデバイスへの適切な接続を行ないます。

サーバーオプションに基づいて、これらを接続するためのケーブルと機器を用意します。

- **PCIe カード** - PCIe デバイスのドキュメントを参照してください
- **USB デバイス** — [60 ページの「USB ポート」](#)を参照してください

関連情報

- [53 ページの「使用可能な接続」](#)
- [56 ページの「SP にケーブルを接続する」](#)
- [56 ページの「Ethernet ポートにケーブルを接続する」](#)
- [57 ページの「ポートの識別」](#)
- [13 ページの「背面パネルのコンポーネント \(設置\)」](#)

ポートの識別

次のトピックでは、コネクタとピン配列について説明しています。ポートの場所については、[13 ページの「背面パネルのコンポーネント \(設置\)」](#)を参照してください。

- [58 ページの「SER MGT ポート」](#)
- [59 ページの「NET MGT ポート」](#)
- [59 ページの「10 ギガビット Ethernet ポート」](#)
- [60 ページの「USB ポート」](#)

関連情報

- [53 ページの「使用可能な接続」](#)
- [55 ページの「データケーブルおよび管理ケーブルの接続」](#)

SER MGT ポート

SER MGT RJ-45 ポートは背面パネルにあり、SP への TIA/EIA-232 シリアル Oracle/ Cisco 標準接続を提供します。DTE 間の通信では、標準の RJ-45 ケーブルとともに付属の RJ-45/DB-9 クロスアダプタを使用すると、必要なヌルモデム構成を実現できます。

デフォルトでは、このポートは次のパラメータで構成されています。

- 8N1 — 8 データビット、パリティなし、1 ストップビット
- 9600 ボー
- ハードウェアフロー制御を無効化 (CTS/RTS)
- ソフトウェアフロー制御を無効化 (XON/XOFF)



ピン	信号の説明	ピン	信号の説明
1	送信可	5	アース
2	データキャリア検出	6	受信データ
3	送信データ	7	データ端末レディー
4	アース	8	送信要求



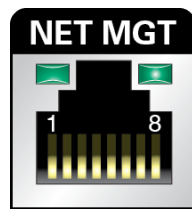
注意 - このポートにモデムを接続しないでください。

関連情報

- [53 ページの「使用可能な接続」](#)
- [13 ページの「背面パネルのコンポーネント \(設置\)」](#)
- [59 ページの「NET MGT ポート」](#)
- [59 ページの「10 ギガビット Ethernet ポート」](#)
- [60 ページの「USB ポート」](#)

NET MGT ポート

NET MGT RJ-45 ポートは背面パネルにあり、SP へのオプションの Ethernet 接続を提供します。サービスプロセッサのネットワーク管理ポートでは、10/100 BASE-T 接続用に RJ-45 ケーブルを使用します。DHCP サーバーを使用しないネットワークでは、SER MGT ポートを通してネットワーク設定を構成するまで、このポートにアクセスできません。このポートでは、ギガビットネットワークへの接続はサポートされていません。



ピン	信号の説明	ピン	信号の説明
1	送信データ +	5	接続なし
2	送信データ -	6	受信データ -
3	受信データ +	7	接続なし
4	接続なし	8	接続なし

関連情報

- [53 ページの「使用可能な接続」](#)
- [13 ページの「背面パネルのコンポーネント \(設置\)」](#)
- [58 ページの「SER MGT ポート」](#)
- [59 ページの「10 ギガビット Ethernet ポート」](#)
- [60 ページの「USB ポート」](#)

10 ギガビット Ethernet ポート

サーバーには、背面パネルに NET 3、NET 2、NET 1、および NET 0 のラベルの付いた、4 つの RJ-45 10 ギガビット Ethernet (10GbE) ネットワークコネクタがあります。これらのポートを使用して、サーバーをネットワークに接続します。

各 NET ポートの上にある LED は、この表に示されているポートごとのリンク/動作状態インジケータです。

接続タイプ	IEEE 用語	転送速度
Fast Ethernet	100BASE-TX	100M ビット/秒
ギガビット Ethernet	1000BASE-T	1000M ビット/秒
10 ギガビット Ethernet	10GBASE-T	10000M ビット/秒

注記 - Oracle ILOM サイドバンド管理機能により、これらの Ethernet ポートの 1 つを使用すると、SP にアクセスできます。手順については、<http://www.oracle.com/goto/ilom321/docs> にある『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイドファームウェア Release 3.2.x』を参照してください。



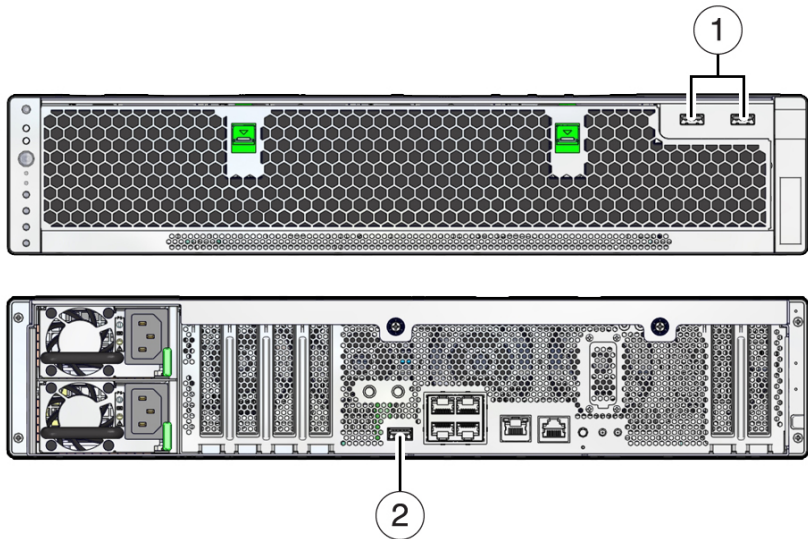
ピン	信号の説明	ピン	信号の説明
1	送信/受信データ 0 +	5	送信/受信データ 2 -
2	送信/受信データ 0 -	6	送信/受信データ 1 -
3	送信/受信データ 1 +	7	送信/受信データ 3 +
4	送信/受信データ 2 +	8	送信/受信データ 3 -

関連情報

- [53 ページの「使用可能な接続」](#)
- [13 ページの「背面パネルのコンポーネント \(設置\)」](#)
- [58 ページの「SER MGT ポート」](#)
- [59 ページの「NET MGT ポート」](#)
- [60 ページの「USB ポート」](#)

USB ポート

サーバーの前面から 2 つの USB ポート、およびサーバーの背面から 1 つの USB ポートを利用できます。USB ポートはホットプラグをサポートしています。サーバーの動作中でも、サーバーの動作に影響を与えることなく USB ケーブルや周辺デバイスを接続および切断できます。



番号	説明
1	前面の USB ポート。 サーバーの前面の USB 2.0 ポートに接続可能な USB ケーブルの長さは最大 5 m (16.4 フィート) です。
2	背面の USB ポート。 背面の USB 3.0 ポートに接続可能な USB ケーブルの長さは最大 1.8 m (6 フィート) です。1.8 m (6 フィート) 以上のケーブルが必要な場合は、USB 3.0 ハブを使用する必要があります。

注記 - 3 つの USB コントローラ (2 つのポートは前面、1 つのポートは背面) のそれぞれに最大 126 台のデバイスを接続できます。



ピン	信号の説明	ピン	信号の説明
1	+5 V 給電	3	データ +
2	データ -	4	アース

関連情報

- [53 ページの「使用可能な接続」](#)
- [13 ページの「背面パネルのコンポーネント \(設置\)」](#)
- [58 ページの「SER MGT ポート」](#)
- [59 ページの「NET MGT ポート」](#)
- [59 ページの「10 ギガビット Ethernet ポート」](#)

サーバーへのはじめての電源投入

これらのトピックでは、はじめてサーバーに電源を投入し、Oracle Solaris OS を構成する手順について説明します。

手順	説明	リンク
1.	電源コードを準備します。	64 ページの「電源コードを準備する」
2.	(オプション) シャーシのアース線を接続します。	65 ページの「シャーシのアース線を接続する」
3.	SER MGT ポートにシリアル端末デバイスまたは端末サーバーを接続します。	66 ページの「SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する」
4.	サーバーの電源を投入し、Oracle ILOM システムコンソールを起動します。	68 ページの「Oracle ILOM システムコンソール」 69 ページの「はじめてサーバーに電源を投入する」 または 71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」
5.	プリインストールされている OS を構成するか、または新規 OS をインストールします。	71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」 または 74 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM Web インタフェース)」
6.	Oracle Solaris OS の構成パラメータを設定します。	76 ページの「Oracle Solaris OS の構成パラメータ」
7.(オプション)	静的 IP アドレスを使用するように NET MGT ポートを構成します。	77 ページの「静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる」
8.(オプション)	サーバーの Oracle Auto Service Request を有効にします。	79 ページの「Oracle Auto Service Request ソフトウェアのアクティブ化」

関連情報

- [21 ページの「設置の準備」](#)
- [25 ページの「サーバーの設置」](#)
- [53 ページの「ケーブルの接続」](#)

▼ 電源コードを準備する

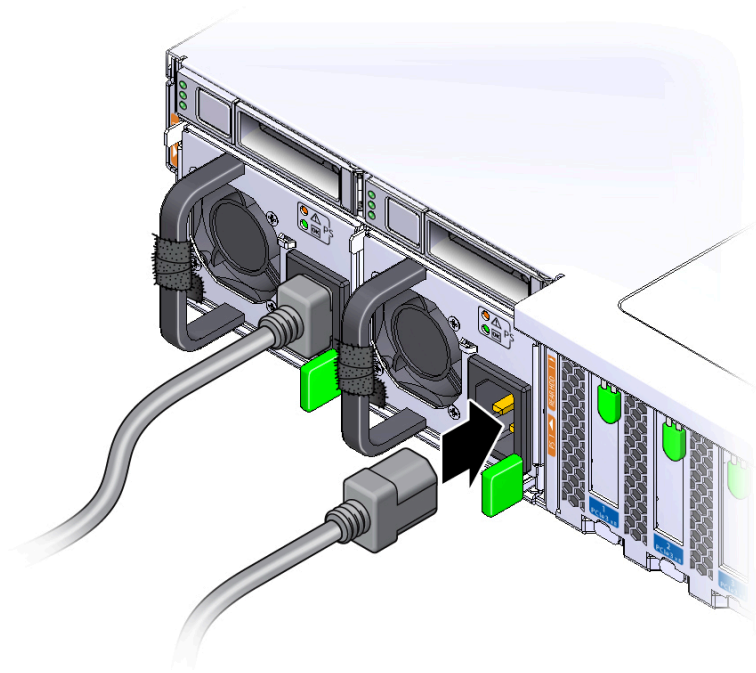
AC 電源からサーバーまで電源コードを配線して準備します。



注意 - サーバーをシリアル端末または端末エミュレータ (PC またはワークステーション) に接続するまで、電源ケーブルを電源装置に接続しないでください。電源ケーブルで電源装置と外部電源を接続すると、ただちにサーバーがスタンバイモードになり、SP 上の Oracle ILOM が初期化されます。電源を入れる前に端末または端末エミュレータが SER MGT ポートに接続されていない場合、60 秒でシステムメッセージが表示されなくなる場合があります。

注記 - 両方の電源装置が同時に接続されていない場合は、非冗長の状態になるため、Oracle ILOM によって障害発生が通知されます。この状況でのこの障害は気にしないでください。

1. AC 電源からサーバー背面に電源コードを配線します。
この時点では、電源コードを電源装置に接続しないでください。



2. (オプション) シャーシのアーススタッド端子をアースに接続します。
[65 ページの「シャーシのアース線を接続する」](#)を参照してください。
3. SER MGT ポートにデバイスを接続します。

66 ページの「SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する」を参照してください。

関連情報

- 65 ページの「シャーシのアース線を接続する」
- 13 ページの「背面パネルのコンポーネント (設置)」
- 63 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」

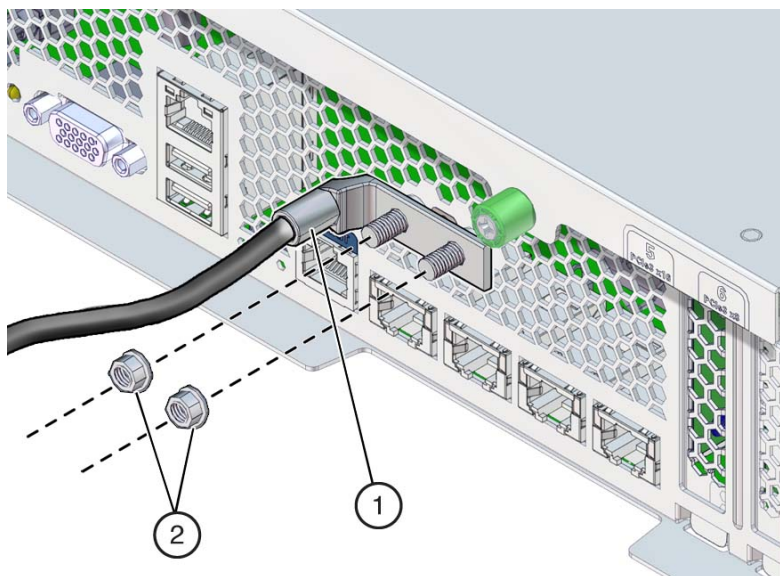
▼ シャーシのアース線を接続する

サーバーの出荷用キットには、シャーシのアース線をサーバーの背面のスタッド端子に接続するためのアース端子と 2 つの M5 ナットが含まれています。アース線は用意する必要があります。

この手順は、AC 入力電力を持つサーバーの場合はオプションです。電源装置およびシャーシのアース線を使用してサーバーを接地することもできます。

1. 出荷用キットからアース端子と 2 つの M5 ナットを取り出します。
2. アース線をアース端子のカシメ爪に挿入し、圧着工具を使用して、カシメ爪でアース線を固定します。
3. サーバーの背面に移動して、2 つのアーススタッド端子を探します。

4. アース端子をシャーシの背面の 2 つのアーススタッド端子にはめ合わせます。



番号	説明
1	アース端子に固定されたアース線
2	M5 ナット

5. 2 つの M5 ナットを使用して、アース端子をアーススタッド端子に固定します。
6. アース線の反対側の終端を建物のアースに固定します。
ラックが建物のアースに適切に接地されている場合は、アース線をラックの適切なアースポイントに固定できます。

関連情報

- [66 ページの「SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する」](#)
- [13 ページの「背面パネルのコンポーネント \(設置\)」](#)
- [63 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」](#)

▼ SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する

はじめてサーバーに電源を投入する前に、SP にシリアル接続します。このシリアル接続を行うと、電源コードの接続時にシステムメッセージを確認できます。

1. 次のタスクが完了していることを確認します。
 - a. 設置の準備を完了した。
[21 ページの「設置の準備」](#)を参照してください。
 - b. サーバーのラックへの設置を完了した。
[25 ページの「サーバーの設置」](#)を参照してください。
 - c. 必要なケーブルを接続した。
[53 ページの「ケーブルの接続」](#)を参照してください。
2. 端末または端末エミュレータ (PC またはワークステーション) をサーバー SER MGT ポートに接続します。
3. 端末または端末エミュレータはこれらの設定で構成します。

- 9600 ボー
- 8 ビット
- パリティなし
- ストップビット 1
- ハンドシェイクなし

ヌルモデム構成が必要で、DTE 間の通信で送受信の信号が逆になる (クロスされる) ことを意味します。標準の RJ-45 ケーブルとともに付属の RJ-45 クロスアダプタを使用すると、ヌルモデム構成を実現できます。

注記 - サーバーにはじめて電源を入れるときに端末または端末エミュレータ (PC またはワークステーション) が SP SER MGT ポートに接続されていない場合は、システムメッセージを確認できません。

4. (オプション) サーバーの NET MGT ポートと、SP およびホストにあとで接続されるネットワークとを、Ethernet ケーブルで接続します。
SER MGT ポートを通してはじめてシステムを構成します。初期構成のあと、この Ethernet インタフェースを介して SP とホストの間の通信を設定できます。
5. サーバーの NET ポートの 1 つと、サーバーが通信するネットワークとを、Ethernet ケーブルで接続します。
6. 電源コードを電源装置および別個の電源に接続します。
電源コードが接続されると、SP が初期化され、電源装置 LED が点灯します。数分後、SP ログインプロンプトが端末デバイスに表示されます。この時点では、ホストは初期化されておらず、電源も入っていません。
7. はじめてサーバーに電源を投入して設置を続けます。

[63 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」](#)を参照してください。

関連情報

- [57 ページの「その他のデータケーブルを接続する」](#)
- [71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」](#)
- [72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする \(Oracle ILOM CLI\)」](#)
- [74 ページの「新規 OS をインストールする状態にする \(Oracle ILOM Web インタフェース\)」](#)

Oracle ILOM システムコンソール

サーバーの電源を入れると、Oracle ILOM システムコンソールの制御下でブート処理が開始されます。システムコンソールには、システムの起動中に実行されるファームウェアベースのテストで生成されたステータスメッセージおよびエラーメッセージが表示されます。

注記 - これらのステータスメッセージとエラーメッセージを確認するには、サーバーに電力を供給する前に、SER MGT に端末または端末エミュレータを接続します。[66 ページの「SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する」](#)を参照してください。

システムコンソールによる低レベルのシステム診断が完了すると、SP が初期化され、より高いレベルの診断が実行されます。SER MGT ポートに接続されているデバイスを使用して SP にアクセスすると、Oracle ILOM 診断の出力が表示されます。

デフォルトでは、SP は DHCP を使用してネットワーク構成設定を取得し、SSH を使用した接続を許可するように、NET MGT ポートを自動的に構成します。

システムコンソールの構成と端末の接続の詳細については、サーバーの管理ガイドを参照してください。

関連情報

- [SPARC および Netra SPARC S7-2 サーバーストック管理ガイド](#)
- Oracle ILOM のドキュメント
- [71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」](#)
- [72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする \(Oracle ILOM CLI\)」](#)
- [74 ページの「新規 OS をインストールする状態にする \(Oracle ILOM Web インタフェース\)」](#)
- [77 ページの「静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる」](#)

▼ はじめてサーバーに電源を投入する

1. 端末デバイスをサーバーの SER MGT ポートに接続します。
66 ページの「SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する」を参照してください。
2. 端末デバイスで SP にログインします。

```
login: root
Password: changeme
. . .
->
```

しばらくすると、Oracle ILOM プロンプト (->) が表示されます。

注記 - Oracle ILOM への初回ログインおよびアクセスを可能にするために、サーバーにはデフォルトの管理者アカウント (root) とデフォルトパスワード (changeme) が用意されています。セキュアな環境を構築するため、Oracle ILOM への初回ログイン後、できるだけすみやかにデフォルトの管理者アカウントのデフォルトパスワードを変更する必要があります。このデフォルトの管理者アカウントがすでに変更されている場合は、システム管理者に連絡して、管理者特権を持つ Oracle ILOM ユーザーアカウントを取得してください。

パスワードの変更、アカウントの追加、アカウント権限の設定などの管理タスクの詳細については、Oracle ILOM のドキュメントを参照してください。

注記 - デフォルトでは、SP は DHCP を使用して IP アドレスを取得するように構成されています。静的 IP アドレスを SP に割り当てようとしている場合は、77 ページの「静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる」で詳細な手順を確認してください。

3. 次のいずれかの方法でサーバーに電源を投入します。

■ システム電源ボタンを押す。

■ Oracle ILOM プロンプトで、次を入力する。

```
-> start /System
Are you sure you want to start /System (y/n)? y
```

サーバーの初期化は、完了するまでに数分かかることがあります。

初期化を取り消すには、#. (シャープ + ピリオド) キーを押して Oracle ILOM プロンプトに戻ります。続いて、stop /System と入力します

4. (オプション) ホスト出力をシリアル端末デバイスに表示するようにリダイレクトします。

```
-> start /HOST/console
Are you sure you want to start /SP/console (y/n)? y
```

```
Serial console started.  
...
```

5. (オプション) サーバーの初期化中にほかの Oracle ILOM コマンドを実行します。
 - a. Oracle ILOM プロンプトを表示するには、#. (シャープ + ピリオド) キーを押します。
 - b. 使用可能な Oracle ILOM コマンドに関する情報を表示するには、help と入力します
特定のコマンドに関する情報を表示するには、help とコマンド名を入力します
 - c. サーバーの初期化からホスト出力の表示に戻るには、次を入力します。

```
-> start /HOST/console
```

6. (オプション) NEBS モードが必要なく、パフォーマンスを向上させたい場合は、NEBS モードを無効にします。

[70 ページの「NEBS モードを無効にする」](#)を参照してください。

7. OS をインストールして設置を続けます。

[71 ページの「OS のインストール」](#)を参照してください。

関連情報

- [57 ページの「その他のデータケーブルを接続する」](#)
- [68 ページの「Oracle ILOM システムコンソール」](#)
- [71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」](#)
- [72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする \(Oracle ILOM CLI\)」](#)
- [74 ページの「新規 OS をインストールする状態にする \(Oracle ILOM Web インタフェース\)」](#)

▼ NEBS モードを無効にする

NEBS モードはデフォルトで有効になっており、高温が検出された場合に、サーバーの速度が低下しないように、最大電力状態を P7 にします。NEBS よりも最大限のパフォーマンスを優先する場合は、この機能を無効にします。

1. NEBS モードを無効にするには、次を入力します。

```
->cd /HOST  
/HOST  
-> ls  
/HOST  
Targets:
```

```
...
Properties:
  autorestart = reset
  ...
  nebs_mode = enabled
  ...
->set nebs_mode=disabled
```

2. OS をインストールして設置を続けます。
[71 ページの「OS のインストール」](#)を参照してください。

関連情報

- [68 ページの「Oracle ILOM システムコンソール」](#)
- [71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」](#)
- [72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする \(Oracle ILOM CLI\)」](#)
- [74 ページの「新規 OS をインストールする状態にする \(Oracle ILOM Web インタフェース\)」](#)

OS のインストール

これらのトピックを使用して、プリインストールされた OS を構成するか、代替 OS を使用します。

- [71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」](#)
- [72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする \(Oracle ILOM CLI\)」](#)
- [74 ページの「新規 OS をインストールする状態にする \(Oracle ILOM Web インタフェース\)」](#)

関連情報

- [76 ページの「Oracle Solaris OS の構成パラメータ」](#)

▼ プリインストールされている OS を構成する

1. 使用する OS を決定します。
 - プリインストールされた OS を使用する予定の場合は、手順 2 に進みます。

- プリインストールされた OS を使用しない場合は、72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM CLI)」または74 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM Web インタフェース)」に進みます。
- 2. プロンプトが表示されたら、ホストで Oracle Solaris OS を構成するための画面上の手順に従います。
構成の確認を求めるプロンプトが数回表示され、そこで確定と変更を行うことができます。特定の値に応答する方法が不明である場合は、デフォルトを受け入れて、あとで Oracle Solaris OS が動作しているときに変更できます。初期構成中に指定する必要がある Oracle Solaris OS パラメータについては、76 ページの「Oracle Solaris OS の構成パラメータ」を参照してください。
- 3. サーバーにログインします。
これで、Oracle Solaris OS コマンドをプロンプトで入力できるようになりました。詳細は、次で Oracle Solaris 11 OS のマニュアルページおよびドキュメントを参照してください。
<http://www.oracle.com/goto/solaris11/docs>

関連情報

- 64 ページの「電源コードを準備する」
- 66 ページの「SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する」
- 69 ページの「はじめてサーバーに電源を投入する」
- 76 ページの「Oracle Solaris OS の構成パラメータ」

▼ 新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM CLI)

プリインストールされている OS を使用する予定がない場合は、この手順を使用して、サーバーがプリインストールされている OS からブートされないようにします。

1. インストール方法に応じて、適切なブートメディアを準備します。
OS をインストールする方法は数多くあります。たとえば、DVD メディアやネットワーク上の別のサーバーから OS をブートし、インストールできます。
手順の詳細については、次で『Oracle Solaris 11 システムのインストール』を参照し、インストールオプションを比較してください。
<http://www.oracle.com/goto/Solaris11/docs>
2. Oracle ILOM から、OpenBoot auto-boot? パラメータを false に設定します。

```
-> set /HOST/bootmode script="setenv auto-boot? false"
```


この設定により、プリインストールされている OS からサーバーがブートされなくなります。ホストの電源がリセットされていない場合に、bootmode を使用すると、変更は 1 回のブートにのみ適用され、10 分で期限切れになります。

3. OS のインストールを開始する準備ができれば、ホストをリセットします。

```
-> reset /System
Are you sure you want to reset /System (y/n)? y
Performing reset on /System
```

4. 通信をサーバーホストに切り替えます。

```
-> start /HOST/console
Are you sure you want to start /HOST/console (y/n)? y
Serial console started. To stop, type #.
```

サーバーで POST が完了するまでに数分かかることがあります。その後、OpenBoot プロンプト (ok) が表示されます。

5. インストール方法に適したブートメディアからブートします。

詳細は、次の場所にある、目的のリリースに対応する『Oracle Solaris 11 システムのインストール』で、インストール方法の比較に関するセクションを参照してください。

<http://www.oracle.com/goto/solaris11/docs>

OpenBoot プロンプトで入力できる有効なブートコマンドのリストについては、次を入力してください。

```
{0} ok help boot
boot <specifier> ( -- )    boot kernel ( default ) or other file
Examples:
  boot                      - boot kernel from default device.
                           Factory default is to boot
                           from DISK if present, otherwise from NET.
  boot net                  - boot kernel from network
  boot cdrom                - boot kernel from CD-ROM
  boot disk1:h              - boot from disk1 partition h
  boot tape                 - boot default file from tape
  boot disk myunix -as      - boot myunix from disk with flags "-as"
dload <filename> ( addr -- )    debug load of file over network at address
Examples:
  4000 dload /export/root/foo/test
  ?go                      - if executable program, execute it
                           or if Forth program, compile it
```

6. インストールの間、指示されたとおりに構成パラメータを入力します。

[76 ページの「Oracle Solaris OS の構成パラメータ」](#)を参照してください。

関連情報

- [71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」](#)

- 72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM CLI)」
- 74 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 77 ページの「静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる」

▼ 新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM Web インタフェース)

プリインストールされている OS を使用する予定がない場合は、この手順を使用して、サーバーがプリインストールされている OS からブートされないようにします。

1. **インストール方法に応じて、適切なブートメディアを準備します。**
OS をインストールする方法は数多くあります。たとえば、DVD メディアやネットワーク上の別のサーバーから OS をブートし、インストールできます。
手順の詳細については、次で『Oracle Solaris 11 システムのインストール』を参照し、インストールオプションを比較してください。
<http://www.oracle.com/goto/solaris11/docs>
2. **まだ実行していない場合は、次のタスクを実行して、サーバー上の Oracle ILOM Web インタフェースにアクセスします。**
 - a. システムと同じネットワーク上のブラウザで、IP アドレスを入力します。
 - b. ユーザー名とパスワードを入力して、Oracle ILOM にログインします。
3. **Oracle ILOM Web インタフェースの左側のナビゲーションペインで、「Host Management」->「Host Boot Mode」をクリックします。**
「Host Boot Mode」ページが表示されます。
4. **「Host Boot Mode Settings」に次の変更を適用します。**
 - a. **「State」には、「Reset NVRAM」を選択します。**
この設定では、スクリプト設定に基づいて 1 回限りの NVRAM (OpenBoot) 変更が適用され、次のホストリセット時に NVRAM がデフォルト設定にリセットされます。
 - b. **「Script」には、「setenv auto-boot? false」を入力します。**
この設定では、プリインストールされている OS を自動的にブートする代わりに、ok プロンプトでホストが停止するように構成されます。
 - c. **「Save」をクリックします。**

注記 - 次の手順の実行時間は 10 分です。10 分後に、自動的に通常の状態に戻ります。

5. 左のナビゲーションパネルで、「Host Management」->「Power Control」をクリックします。
6. プルダウンメニューから「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。
7. 左のナビゲーションパネルで、「Remote Control」->「Redirection」をクリックします。
8. 「Use Serial Redirection」を選択して、「Launch Remote Console」をクリックします。
ホストがリセットされると、シリアルコンソールにメッセージが表示されます。リセットアクティビティが完了するまで数分かかります。ok プロンプトが表示されたら、次の手順に進みます。
9. ok プロンプトで、インストール方法に適したブートメディアからブートします。

詳細は、次で『Oracle Solaris 11 システムのインストール』を参照し、インストールオプションを比較してください。

<http://www.oracle.com/goto/solaris11/docs>

OpenBoot プロンプトで入力できる有効なブートコマンドのリストについては、次を入力してください。

```
{0} ok help boot
boot <specifier> ( -- )    boot kernel ( default ) or other file
Examples:
    boot                    - boot kernel from default device.
                           Factory default is to boot
                           from DISK if present, otherwise from NET.
    boot net                - boot kernel from network
    boot cdrom              - boot kernel from CD-ROM
    boot disk1:h            - boot from disk1 partition h
    boot tape               - boot default file from tape
    boot disk myunix -as    - boot myunix from disk with flags "-as"
dload <filename> ( addr -- )    debug load of file over network at address
Examples:
    4000 dload /export/root/foo/test
    ?go                    - if executable program, execute it
                           or if Forth program, compile it
```

10. インストールの間、指示されるとおりに構成パラメータを入力します。
[76 ページの「Oracle Solaris OS の構成パラメータ」](#)を参照してください。

関連情報

- [71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」](#)
- [72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする \(Oracle ILOM CLI\)」](#)
- [74 ページの「新規 OS をインストールする状態にする \(Oracle ILOM Web インタフェース\)」](#)

■ [77 ページの「静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる」](#)

Oracle Solaris OS の構成パラメータ

Oracle Solaris OS を構成する際、次の構成パラメータの入力を求めるプロンプトが表示されます。これらの設定の詳細については、Oracle Solaris のドキュメントを参照してください。

パラメータ	説明
Language	表示された言語の一覧から番号を選択します。
Locale	表示されたロケールの一覧から番号を選択します。
Terminal Type	使用している端末デバイスに対応する端末のタイプを選択します。
Network?	「Yes」を選択します。
Multiple Network Interfaces	構成する予定のネットワークインタフェースを選択します。不明な場合は、一覧の先頭を選択します。
DHCP?	使用しているネットワーク環境に応じて、「Yes」または「No」を選択します。
Host Name	サーバーのホスト名を入力します。
IP Address	この Ethernet インタフェースの IP アドレスを入力します。
Subnet?	使用しているネットワーク環境に応じて、「Yes」または「No」を選択します。
Subnet Netmask	Subnet? の答えが「Yes」だった場合は、使用しているネットワーク環境のサブネットのネットマスクを入力します。
IPv6?	IPv6 を使用するかどうかを指定します。不明である場合は、「No」を選択して IPv4 用の Ethernet インタフェースを構成します。
Security Policy	標準の UNIX セキュリティー (No) または Kerberos セキュリティー (Yes) のいずれかを選択します。不明である場合は、「No」を選択します。
Confirm	画面上の情報を確認し、必要に応じて変更します。それ以外の場合は、続行します。
Name Service	使用しているネットワーク環境に応じて、ネームサービスを選択します。
	「None」以外のネームサービスを選択すると、追加のネームサービスの構成情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。
NFSv4 Domain Name	使用している環境に応じて、ドメイン名構成のタイプを選択します。不明である場合は、「Use the NFSv4 domain derived by the system」を選択します。
Time Zone (Continent)	該当する大陸を選択します。
Time Zone (Country or Region)	該当する国または地域を選択します。
Time Zone	タイムゾーンを選択します。
Date and Time	デフォルトの日付と時間を受け入れるか、値を変更します。
root Password	root パスワードを 2 回入力します。このパスワードは、このサーバーの Oracle Solaris OS のスーパーユーザーアカウント用です。このパスワードは、SP のパスワードではありません。

関連情報

■ [Oracle Solaris OS のドキュメント](#)

- 71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」
- 72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM CLI)」
- 74 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM Web インタフェース)」

▼ 静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる

NET MGT ポートから SP に接続する予定がある場合は、SP に有効な IP アドレスが存在する必要があります。

デフォルトでは、サーバーは、ネットワークの DHCP サービスから IP アドレスを取得するように構成されています。サーバーが接続されているネットワークが IP アドレス指定を行う DHCP をサポートしていない場合は、この手順を実行します。

注記 - DHCP をサポートするようにサーバーを構成するには、Oracle ILOM のドキュメントを参照してください。

1. SER MGT ポートを使用して、SP 上の Oracle ILOM に接続します。

SER MGT ポート経由でまだ接続していない場合は、必要に応じて [66 ページの「SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する」](#)の手順を実行してください。

2. 静的 IP アドレスを受け入れるように SP を設定します。

```
->set /SP/network pendingipdiscovery=static
Set 'pendingipdiscovery' to 'static'
```

3. SP の IP アドレスを設定します。

- デフォルトの IPv4 DHCP プロパティを変更し、静的 IPv4 アドレスのプロパティ値を設定するには、IPv4_address と入力します。

- デフォルトの IPv6 DHCP プロパティを変更し、静的 IPv6 アドレスのプロパティ値を設定するには、IPv6_address と入力します。

```
->set /SP/network pendingipaddress=service-processor-IPAddr
Set 'pendingipaddress' to 'service-processor-IPAddr'
```

4. SP ゲートウェイの IP アドレスを設定します。

```
-> set /SP/network pendingipgateway=gateway-IPAddr
Set 'pendingipgateway' to 'gateway-IPAddr'
```

5. SP のネットマスクを設定します。

```
-> set /SP/network pendingipnetmask=255.255.255.0
Set 'pendingipnetmask' to '255.255.255.0'
```

この例では、255.255.255.0 を使用してネットマスクを設定します。使用しているネットワーク環境のサブネットでは、異なるネットマスクが必要になる場合があります。使用している環境にもっとも適したネットマスク番号を使用してください。

6. パラメータが正しく設定されたことを確認します。

この例は、SP を DHCP 構成から静的構成に変換するように設定されたパラメータを示しています。

```
-> show /SP/network -display properties
/SP/network
Targets:
Properties:
  commitpending = (Cannot show property)
  dhcp_clientid = xxx.xxx.xxx.xxx
  dhcp_server_ip = xxx.xxx.xxx.xxx
  ipaddress = XXX.XXX.XXX.XXX
  ipdiscovery = dhcp
  ipgateway = XXX.XXX.XXX.XXX
  ipnetmask = 255.255.255.0
  macaddress = xx:xx:xx:xx:xx:xx
  managementport = MGMT
  outofbandmacaddress = xx:xx:xx:xx:xx:xx
  pendingipaddress = service-processor-IPAddr
  pendingipdiscovery = static
  pendingipgateway = gateway-IPAddr
  pendingipnetmask = 255.255.255.0
  pendingmanagementport = MGMT
  sidebandmacaddress = xx:xx:xx:xx:xx:xx
  state = enabled
->
```

7. SP のネットワークパラメータに対する変更を設定します。

```
-> set /SP/network commitpending=true
Set 'commitpending' to 'true'
```

注記 - show /SP/network コマンドをもう一度入力すると、それらのパラメータが更新されたことを確認できます。

8. Oracle Solaris OS を構成するときの静的 IP アドレスを設定します。

71 ページの「[ブリインストールされている OS を構成する](#)」を参照してください。

関連情報

- 『サーバー管理』
- [71 ページの「ブリインストールされている OS を構成する」](#)

- 72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM CLI)」
- 74 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 76 ページの「Oracle Solaris OS の構成パラメータ」
- Oracle ILOM のドキュメント

Oracle Auto Service Request ソフトウェアのアクティブ化

最初のインストールと Oracle Solaris 構成が終了したら、サーバー用の Oracle Auto Service Request (Oracle ASR) ソフトウェアを有効にできます。

Oracle ASR ソフトウェアは、特定の障害が発生したときに、Oracle が承認したサーバー、ストレージ、および一体型システムの製品に対してサービスリクエストを自動的に開くことで、迅速に問題を解決する機能を提供します。

Oracle ASR から送信されたサービスリクエストを受け取るとすぐに部品が発送されます。多くの場合、問題が存在していることをユーザーが気付く前に、Oracle のエンジニアがすでに問題の解決に取り組んでいます。

Oracle ASR を搭載した Oracle 製品は、電子的な障害遠隔測定データを Oracle にセキュアかつ自動的に送信し、診断プロセスの迅速化に役立っています。一方向のイベント通知は、受信インターネット接続やリモートアクセスメカニズムを必要としません。問題の解決に必要な情報のみが Oracle に伝えられます。

Oracle ASR は、Oracle のハードウェア保証、Oracle Premier Support for Systems、および Oracle Platinum Services の機能です。

- <http://www.oracle.com/us/support/premier/overview/index.html>
- <http://www.oracle.com/us/support/premier/engineered-systems-solutions/platinum-services/overview/index.html>

Oracle ASR は、My Oracle Support (<https://support.oracle.com>) に統合されています。新規サーバーなどの ASR アセットを有効にするには、My Oracle Support を使用する必要があります。

サーバーの自動サポートを有効にするには、次の場所で、ソフトウェアをダウンロードして追加情報を探してください。

<http://www.oracle.com/us/support/auto-service-request/index.html>

このサイトで利用できる Oracle ASR のリソースには、次のものがあります。

- Oracle Auto Service Request のドキュメント
http://docs.oracle.com/cd/E37710_01/index.htm

- *My Oracle Support* で保留中の ASR アセットを承認する方法 (DOC ID 1329200.1)
<https://support.oracle.com/rs?type=doc&id=1329200.1>

関連情報

- Oracle Auto Service Request のドキュメント
http://docs.oracle.com/cd/E37710_01/index.htm

索引

数字・記号

- 2 ポスト
 - 19 インチハードマウント, 45
 - 19 インチハードマウントキットの取り付け, 44, 46
- 4 ポスト
 - 19 インチハードマウントキット, 28
 - 19 インチハードマウントの取り付け, 29
 - CMA 付き 19 インチスライドレール, 34
 - CMA 付き 19 インチスライドレールの取り付け, 35

あ

- アース, 26
 - ストラップ, 23
- アース線、接続, 65
- アースポスト, 13
- アース用ポート, 13
- アクティブ化、Oracle Auto Service Request, 79
- 位置特定 LED
 - ボタン, 12
- インジケータ, 10
- インストール
 - OS, 71
 - 準備, 21
- エラーメッセージ、ブートプロセス, 68
- 奥行き, 15
- オプションのコンポーネント, 25
- 音響ノイズの放出, 19
- 温度
 - 周囲, 18
 - 仕様, 18

か

- 概要
 - サーバー, 9, 10

- 設置タスク, 9
- 回路の過負荷, 26
- カテゴリ 6 ケーブル, 56
- 過電流保護の要件, 17
- 環境要件, 18
- 管理ケーブル、接続, 55
- 機械的荷重, 26
- 機能、サーバー, 10
- クリティカルアラーム LED, 12
- ケーブル
 - Ethernet ポートの接続, 56
 - SP の接続, 56
 - カテゴリ 6, 56
 - 接続, 53
 - その他のデータの接続, 57
 - データと管理の接続, 55
 - 電源コード, 64
- 構成
 - Oracle Solaris, 76
- 構成パラメータ
 - Oracle Solaris, 76
- コンポーネント
 - オプション, 25
 - 背面パネル, 13
 - フロントパネル, 12

さ

- サージプロテクタ, 17
- サーバー
 - 奥行き, 15
 - 概要, 9, 10
 - 機能, 10
 - 重量, 15
 - 設置, 25
 - 設置場所とサーバーの仕様の確認, 15

- 高さ, 15
- 幅, 15
- パフォーマンスの向上, 70
- 持ち上げる場合の注意, 22
- モデル, 12
- サーバーと設置場所の仕様の確認, 15
- サービスプロセッサ
 - show コマンド, 77
- サポートされる, 10
 - Ethernet ポート, 10
 - PCIe スロット, 10
 - SP, 10
 - USB ポート, 10
 - ストレージ, 10
 - 電源装置, 10
 - 光メディア, 10
 - 冷却ファン, 10
- サポートされるストレージ, 10
- 識別
 - ポート, 57
- システム OK LED, 12, 13
- 湿度仕様, 18
- シャーシアースポスト, 13
- 周囲温度, 18
- 周波数仕様, 16
- 重量, 15
- 出荷キットの内容一覧, 21
- 準備
 - サーバーの設置, 21
- 仕様
 - 温度, 18
 - 高度, 18
 - 湿度, 18
 - 周波数, 16
 - 設置場所, 15
 - 電圧, 16
 - 電源装置, 16
 - 入力電流, 16
 - 物理, 15
- 使用可能な接続, 53
- シリアル接続, 53
- シリアル端末の設定, 66
- シリアル端末のパリティ, 66
- シリアル端末のハンドシェイク, 66
- シリアル端末のビット設定, 66
- シリアル端末のボーレート, 66

- スイッチ, 10
- スタンバイ
 - モード, 64
- ステータスインジケータ
 - 背面パネル, 13
 - フロントパネル, 12
- ストップビット, 66
- スライドレールキット、取り付け, 33
- 絶縁された電源, 17
- 接続
 - ケーブル, 53
 - シャーシのアース線, 65
- 接続、使用可能な, 53
- 設置
 - タスクの概要, 9
 - ツール, 23
- 設置場所の仕様, 15
- 接地ポスト, 65
- 相対湿度, 18
- 装置の搭載, 26

た

- 高さ, 15
- タスクの概要、設置, 9
- 端末デバイス, 23
- 注意事項
 - ラック, 26
- 注意、設置, 22
 - ESD, 23
- 通気
 - 注意事項, 20
- ツール
 - 設置, 23
- データケーブル, 57
 - 接続, 55
- 電圧
 - 仕様, 16
- 電気
 - 仕様, 16
- 電気工事基準, 17
- 電源
 - LED, 12
- 電源コード、配線, 64
- 電源装置, 10, 13
 - 仕様, 16

スタンバイモード, 64
電源投入
はじめて, 63, 69
電源ボタン
位置, 12
転倒防止バー, 22
電流, 17
電力、入力, 17
ドライブスロット, 12
取り扱い上の注意, 22
取り付け
2 ポスト 19 インチハードマウントキット, 44, 46
CMA 付き 19 インチスライドレール, 35
CMA 付きスライドレールキット, 33

な

内容一覧、出荷キット, 21
入力電流仕様, 16
入力電力, 17
ねじ回し, 23
ノイズの放出、音響, 19

は

ハードマウントキット
取り付け, 27
配線
Ethernet ポート, 56
SP, 56
電源コード, 64
背面パネル
コンポーネント, 13
幅, 15
光メディア, 10
ピン配列
NET MGT ポート, 59
NET ポート, 59
SER MGT ポート, 58
USB ポート, 60
ファン, 10
ブートプロセス, 68
物理仕様, 15
フロントパネル
コンポーネント, 12

放出、音響, 19
ポート
NET 0-3, 59
NET MGT, 59
SER MGT, 58
USB, 60
位置, 13
識別, 57
保守要求 LED, 12, 13

ま

マイナーアラーム LED, 12
無効化、NEBS モード, 70
メジャーアラーム LED, 12
メディア、光, 10
メモリー, 10
持ち上げる場合の注意, 22
モデル、サーバー, 12

や

ユーザーアラーム LED, 12
要件
Ethernet ケーブル, 56
過電流保護, 17
環境, 18
高度, 18
ツール, 23
配線, 53
避雷, 53

ら

ラック
固定, 27
注意事項, 26
ラックの固定, 27
ラックマウント
2 ポスト
19 インチハードマウント, 45
4 ポストハードマウントキットの取り付け, 29
CMA 付き 4 ポスト 19 インチスライドレール, 34
CMA 付き 4 ポスト 19 インチスライドレールの取り付け, 35

リストストラップ, 23

冷却, 10

ロケータ LED

ボタン, 13

わ

避雷要件, 53

C

CMA

スライドレールキットによる取り付け, 33

CPU, 10

E

ESD

注意, 23

マット, 23

Ethernet ポート, 10, 13, 53

配線, 56

I

IP アドレス, 53

静的の NET MGT ポートへの割り当て, 77

L

LED, 10, 12

N

NEBS モード, 70

NET MGT

静的 IP アドレスの割り当て, 77

NET MGT ポート, 13, 53, 56, 59

NET ポート, 13, 53, 59

O

Oracle Auto Service Request, 79

Oracle ILOM

システムコンソール, 68

Oracle Solaris

構成パラメータ, 76

新規 OS のインストール (Oracle ILOM CLI), 72

新規 OS のインストール (Oracle ILOM Web インタフェース), 74

OS

プリインストールされた構成, 71

OS、インストール, 71

P

PCIe スロット, 10, 13

S

SAS ドライブスロット, 12

SER MGT ポート, 13, 53, 56, 58

初回電源投入, 66

show /SP/network コマンド, 77

show コマンド, 77

SP, 10

配線, 56

T

Telco アラーム LED, 12

U

U.S. NEC, 17

USB ポート, 10, 12, 13, 60